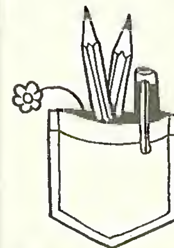
日本協会だより



◆3月度 常務理事会

日　時　平成6年3月19日（土）10時30分～17時
場　所　岸記念体育館504会議室
出席者　中澤専務理事、常務理事8名

1．特別委員会（会長提案による）について
専務理事より経過説明につづき日本リーグ加盟チームに対し発信した『選手発掘・育成・強化事業に対する財源確保のお願い』について説明がなされた。
4月21日午後、オーナー会議を開催。右記について理解を深めて頂くこととした。

2．男子世界選手権東アジア地区予選について
タイペイより出場辞退の連絡があり、参加は4ケ国以下となることが報告された。
看板広告募集は常務理事が分担して当たることとした。

3．97世界選手権招致について
4月27日よりスイスのローザンヌにおいて、IHF理事会が開催される。ここが最後のプレゼンテーションの場になると考え、熊本県・市と共同で代表団を派遣する。

4．賛助会員募集について
各常務理事が1人10名以上を紹介するよう申し合わせた。

5．アンケート調査について
日本ハンドボール協会の将来ビジョンについて各々の立場からのご意見を伺うため、各都道府県協会、加盟団体理事長に対しアンケート調査を実施する。調査項目についての意見を3月22日までに提出する事とした。

6．各部門事業計画について
ア．平成7年度全日本総合選手権は12月21日～24日開催で準備する事とした。
イ．ジャパンカップは8月21日～25日。スイスチームの来日希望あり、他チームの希望と合わせて検討する。
ウ．全国指導者研究発表会の主催を従来の教職員連盟より日本協会に変更する件、承認。

以上

5月度 行事予定

●大会
5/ 4～ 8　第14回男子世界ハンドボール選手権大会
　東アジア地区予選（広島市東区スポーツセンター）
5/13～15　JBHプレジデントカップ
　男子（名古屋）
　女子（大　阪）
　（本年度の第35回高松宮杯全日本実業団選手権大会中止による代替大会）

●ナショナル活動
5/10～6/10　男子A　ヨーロッパ（フランス、ドイツ、スウェーデン）遠征
4/ 9～5/20　女子A　強化合宿　呉（自衛隊）
5/21～6/15　女子A　強化合宿　熊本（オムロン）

CONTENTS

写真提供：スポーツイベント

第14回男子世界ハンドボール選手権大会
東アジア地区予選組み合わせ予定

1995年にアイスランドで行われる第14回男子世界ハンドボール選手権大会の出場権をかけて、5月2日から8日まで広島で東アジア地区予選が開かれるが、その組み合わせ（予定）が固まった。アジアからは3チームが出場出来るが、東アジア地区、中東地区のそれぞれ1位は自動的に出場権を獲得し、両地区の2位チームがもう一つの出場権を賭けて後日対戦する。

東アジア地区の組み合わせは別掲の通り。我がナショナルチームが世界選手権大会に出場出来る様、盛大な応援をお願いしたい。なおTV放映のスケジュールも別掲の通り行われることが決まった。

日本代表チームのメンバーは、平成6年度ナショナルA選手20名の中から選ばれる。

組み合わせ（予定）

●5/5(木)呉市日新製鋼体育館
16:00～ カザフ―日本
17:40～ 中国―韓国
●5/7(土)広島市東区スポーツセンター
15:30～ 韓国―カザフ
16:40～ 日本―中国
●5/8(日)広島市東区スポーツセンター
11:00～ 中国―カザフ
13:00～ 韓国―日本

★TV放映時間★

3日目　5月8日(日)13時～
韓国×日本　NHK総合テレビ
（放送エリア・中国地区）

お問い合わせ
(財)日本ハンドボール協会　03-3481-2361
広島県ハンドボール協会　082-244-2907

★平成6年度ナショナルA選手

監督	蒲生	晴明
コーチ	田口	隆
〃	関	健三
GK	橋本	行弘(本田技研)
〃	林	康一(大同特殊鋼)
〃	井上	耕一(中村荷役)
〃	河野	裕光(湧永製薬)
CP	首藤	信一(大崎電気)
〃	堀田	敬章(湧永製薬)
〃	魚住	和彦(大崎電気)
〃	末岡	政広(大同特殊鋼)
〃	田中	茂(三陽商会)
〃	高木	浩司(中村荷役)
〃	渡辺	浩(三陽商会)
〃	三輪	澄高(トヨタ自動車)
〃	田中	雅彦(湧永製薬)
〃	源内	利之(日新製鋼)
〃	高田	浩次(湧永製薬)
〃	藤井	孝志(大同特殊鋼)
〃	岩本	真典(三陽商会)
〃	富本	栄治(大同特殊鋼)
〃	中山	剛(湧永製薬)
〃	佐藤壮一郎	(大同特殊鋼)

97WC ニュース

ボルスタッド、朴両氏が熊本視察

井　薫

2月22日の97熊本世界選手権大会、熊本招致委員会は大変な熱気でした。地元の新聞、テレビ各社が大きく報じましたので、昨年6月の日本協会評議員会での世界選手権大会の日本招致、熊本開催決定以降行ってきた段階的招致活動の報告に、関心を示す県民は少なからずいましたが、今回の会で熊本の全般に認知されました。

熊本は1999年に国体の開催が内定し、諸準備に入っていますが、その2年前のビッグイベントについて、県、市はもとより、県の体育協会に全面的にバックアップしてもらっていますが、大変ありがたいことと思っています。

さて2月27日、IHFのAレフェリーの講習と審査を終えたノルウェーのボルスタッド氏と、韓国の朴氏を熊本に招き、県知事、市長への表敬、さらに会場、設備の視察を受けました。

知事、市長ともにボルスタッド氏のノルウェー・リレハンメルのオリンピック、また昨年末のオスロの女子世界選手権大会の成功を祝福しますと、「私の町もオリンピックの会場の一つで、今回来日していなければ会場の放送の仕事をしていました」、「女子の世界選手権は、開催国として3位入賞、同じ北欧グループのデンマークが2位と盛り上がりました」と語り、熊本開催の場合の日本チームの活躍が大会の成功の鍵である旨の示唆もありました。朴氏からは昨年10月のIHFの金理事の熊本訪問の際のお礼が伝えられ、AHFとしても熊本開催決定に努力しているとの説明がありました。



Aレフェリーコースでのボルスタッド氏
(左から2人目)

会場視察では、サブコート、シャワールーム、大会役員控え室等、かなり子細なチェックを受けました。またファイナル会場については、県庁訪問の際に知事から97年2月完成の確約があり、両氏とも特に問題はないとのコメントでした。

これらの間に水前寺公園、熊本城を観光。水前寺のきれいな湧水、早春の熊本城の梅に、ボルスタッド氏は「ワンダフル!」を連発。カメラを片手に「時間がもっとほしい」と、例の人なつっこい顔でウインクをしていました。

訪問者、受入側、双方に有意義な企画でしたし、與縄県協会長のご夫妻には流暢な英語でお世話をいただきました。

順序は前後しますが、熊本の招致委員会の前日の21日、東京で日本招致委員会の第2回常任委員会が開かれ、昨年12月オスロの打ち合わせをベースにしたIHFへのプロポーザルの検討・作成を進め、4月上旬に渡邊委員長が渡欧、IHFの専務理事のレイモンド・ハーン氏等に提出することを決定しました。

このプロポーザルは日本としての初めての提出であり、エージェントのCWLとIHFの契約条項等の詳細が、また一度開催が危ぶまれた第14回の開催地のアイスランドの契約内容等が提示されると思われる。そしてメディアの関わりがイベントの成否に及ぼす大切な部分についても、より具体的な方向づけが得られると期待し、日本としては2回以降をどう表現していくのか、英知を集結させるべきだと思います。

この部分を水面下の日本協会サイドの仕事だとしますと、4月27日からのスイス・ローザンヌの知事、市長が揃ってのプレゼンテーションは、まさに熊本サイドの具体的表現であり、この二つの動きがあいまって9月のIHF総会での日本招致の決定を期待したいものです。

アトランタ五輪を目標に…………

男子強化専門委員長　津川　昭



早いものでバルセロナ五輪予選から2年半の歳月が流れ、蒲生新生全日本もチーム編成から2年たった。その間、誠に残念なことだが経済のこのような変遷から資金集めに苦慮し、我々協会関係者の力不足もあって、全日本チームの国内ゲームを一試合も組むことができなかった。我々が全日本選手を見るのは日本リーグであり、全日本総合、学生リーグであって、個々の全日本選手は見ても、全日本チームは見ることができなかった。にもかかわらず今年5月には世界選手権東アジア予選、10月には広島アジア大会が迫っており、至急全日本チームの完成度を見極める必要があった。

本来なら外国チームを招聘し、華々しく全日本チームのデビューを飾らしてやりたい気持ちであったが、仕方なく今年12月、トルコでの世界学生へ出場する学生選抜チーム、ナショナルB・Jrでの混成チーム、元全日本選手、日本リーグ所属外人選手を中心とする日本リーグ選抜との4チームによる大会を開催することを男子強化委員会で決定した。

全日本チームはバルセロナ五輪予選後、当然次のアトランタ五輪予選を第一の目標に、年令的にもその時に一番力を発揮できる世代で編成されている。ですから国内的には元全日本選手等で、まだまだ力があり、日本リーグ等で現日本選手よりも活躍する場合があります。本来ならその年、その年で最強のメンバーによる全日本チームがあり、若手の育成は全日本Bで実施するのが一番良いのですが、韓国や中国等に対等に戦えるまで育てるには、かなりの期間と実戦が必要になります。ですから全日本BにもAと同じくらいの合宿や遠征をさせる必要がありますが、資金的にも国内スケジュール的にも問題があります。

今回のチャレンジマッチは、前記したとおり東アジア予選、アジア大会を目前に控え、アトランタ



(左から)田口コーチ、蒲生監督、関コーチ



全日本チャレンジマッチ結果

■３月10日(木)

男子	全日本B＋Jr	26－23	日本リーグ選抜
男子	全日本A	19－18	学生選抜

■３月11日(金)

男子	日本リーグ選抜	32－24	学生選抜
女子	全日本	28－16	学生選抜
男子	全日本	27－14	全日本B＋Jr

■３月12日(土)

男子	学生選抜	25－20	全日本B＋Jr
女子	全日本	27－18	学生選抜
男子	全日本A	22－16	日本リーグ選抜

を目指した選手たちが予定通り成長しているか、また不測な事態に備えてベテランの復帰が必要かどうか等をチェックするために強化委員はもちろん、協会からも専務理事をはじめ多くの常務理事も観戦された。私としては国内デビュー戦をこんなプレッシャーのかかる大会にすることに対し、スタッフ、選手に大変申し訳なく思ったが、本番での実を取るためには仕方なく、新生全日本の活躍を期待するばかりだった。

試合結果は別掲の通りで、全日本は短所と長所、弱さと強さ、裸の姿を見せた。リズムが狂った時のモロさ、若さが爆発した時の強さ。私自身の全日本チームの感想は、チームとしての完成度が予定より少し遅れているのではないかということだ。どのメンバーで組んだ時に一番安定感があり、最低でもこれだけの力は発揮出来るとか、攻撃重視の場合、誰と誰を替えるとか、根幹をなすチームの完成が少し遅れている気がした。しかし、対日本リーグ選抜戦の中盤以降の戦いは見ごたえがあり、パワーを感じることが出来た。チーム作りとしてはこれからが一番、時間と経験を要する時であり、力を結集して頑張ってもらいたい。

どたばたと短期間の準備で開いた大会であったが、ジュニアや学生にとっては全日本というものを直接肌で感じ、将来に対する意欲、目標を持てたと思うし、我々にとってもジュニアB（含む学生）、Aという強化体制の中身を一堂に見ることが出来、有意義な大会だった。ぜひ年一回の定例化をしてほしいという意見が多かった。

大切なことは全日本Aはもちろん、B、ジュニア、学生選抜も、皆我々ハンドボール愛好者のチームであり、それぞれの立場で代表選手たちが本当にのびのびとナショナル活動に専念出来るよう物心ともに応援してやることでないだろうか。大会開催を心よく引受け運営して頂いた広島県協会、すべて所属チーム負担にもかかわらずご協力頂いた日本リーグ所属チーム、日本リーグ選抜チーム選手に厚く御礼申し上げます。



上は男子学生選抜、下は女子学生選抜



平成5年度第17回全国高等学校ハンドボール選抜大会報告

男子 香川中央、女子 熊本女子商業が優勝

愛知県ハンドボール協会 村木 啓作

3月24日から28日までの間、愛知県体育館を会場に開催されました平成5年度第17回全国高等学校ハンドボール選抜大会も、男子・四国地区代表香川県立香川中央高等学校、女子・九州地区代表熊本女子商業高等学校の両チーム初優勝という結果を最後に、無事終了することが出来ました。これも全国のハンドボール愛好者、応援の皆様方、チームの選手の皆さん等多くの方々のご支援、ご協力の賜物と感謝いたしております。ここに厚くお礼申し上げます。

さて今大会は昨年度は従来からの会場でありました愛知県体育館が本年愛知県で開催されます「わかしゃち国体」のために改装工事のため使用出来ず、2会場での開催となり、運営の面等で大変でしたが、今年は改装なった愛知県体育館で開催。

全国9ブロック等（北海道2、東北2、関東3、東海2、北信越2、近畿2、中国2、四国2、九州3、登録100チーム以上の東京・神奈川・愛知・大阪から1、開催県から1）から選抜された男女各26チーム合計52チーム、選手728名の参加で開催。今大会の初出場チームは、男子5チーム、女子6チームと例年に比べ多く、新鮮なまた新たな出会いの機会も増える大会となりました。

大会を運営する側は、審判団30名、競技役員約70名、競技補助員約70名。総勢170名。競技役員、競技補助員は全て県内のハンドボールの関係者であります。年度末の多忙な中、早朝より夜遅くまで大変なご苦労をおかけしました。

試合日程は、24日は午後3時より開会式のみです。25日より2コートを使い試合が開始されます。第1回戦男女各10試合、午前9時20分より第1試合が開始されます。試合時間は25分×5分×25分とハーフタイムを短くしています。それでも終了は午後8時。超ロングランの1日です。この日を乗り切れば大きな山場は越えることができ、例年のことですが少々ほっとします。

第2日は2回戦男女各8試合。9時30分開始、終了午後6時40分。この日から試合時間は25分×10分×25分。1回戦不戦勝のチームも登場。これで今大会参加チームが全て出揃います。

第3日は準々決勝4試合、準決勝2試合の男女各6試合。準決勝進出チームは1日2試合となり、コンディション等も大変難しく過酷な一日になっています。終了後、男女の3位表彰。引き続きコートを2面から1面にし、第4日目最終日は、午前10時から女子の決勝、引き続き男子決勝。終了後表彰式ならびに閉会式となっています。

さて今大会を振り返って、印象に残った試合を公式記録を基に振り返ってみたいと思います。もちろん全試合を通して観れた訳ではありませんので、そのあたりはご容赦ください。

例年ならば桜もちらほらと咲き始めてといった陽気の中での大会ですが、今年は寒さが戻り毎日ぶるぶると震えながらでしたが、館内は若さのあふれるプレーの応酬、応援の方々の声援で熱気がむんむん、応援で来名の方は毎年毎年増えています。観客席も多くあり、目の前でプレーを観ることができることは大会の盛り上がりには不可欠の要素であると思います。

さて初出場男女11チームの戦績を見てみますと、結果はやはり多回数出場チームの壁は厚く、結局1回戦突破は男子で下関中央工業、女子では氷見、徳島城北、そして浦添が2回戦突破ベスト8に進出。

延長戦も全部で3試合、それも女子だけと比較的少なく、淡々とした試合展開でした。しかし3日目の男子準決勝戦は、両試合とも最後まで1点を争うスリリングな試合になりました。

紙面の都合もあるので、この2試合と男女の決勝戦を振り返ってみたいと思います。

男子準決勝Aコート、北陸高校—香川中央高校両チームとも初のベスト4進出。立ち上がり7分までキャプテン谷口の3連続得点で北陸4—1とリード。しかし香川中央も3番高田の同じく3連続得点等で22分に追いつき、その後も連続得点などで1点リードし香川中央が9—8で前半終了。後半1分、香川中央が2点リードも北陸3連続得点で逆転。しかし9分、香川中央が逆転し13—12、19分から北陸3点連取17—16と再度逆転。しかしその直後22分53秒、北陸6番四野宮退場、香川中央23分7MTで17—17と同点。そして24分19秒5番林の得点で18—17、そのまま逃げ切る。北陸は全日本ジュニア候補の谷口了（2年生、身長184センチ、右投げ）の10得点などの活躍もあったが、しかし警告2、退場6名などディフェンス面でのミスで敗退を余儀なくした。

もう一方の小松工業と横浜商工、小松工業は初のベスト4進出。先取点は小松工業。しかし3分から10分間無得点の間に、横浜商工5連続得点で7—2。しかし小松工業も3番小川のロングシュート等で追い上げ10—8と2点差まで追い詰めて前半終了。後半立ち上がり横浜商工連続得点で4点差。その後は一進一退。しかし小松工業10分過ぎから5点連続得点で15分に16—16とついに同点に追いつく。横浜商工2番峰村が引き離しにかかり、19分に20—17と3点差。しかし19分19秒から小松工業3点連取。21分15秒、同点。横浜商工得点21—20に。しかし小松工業5番和田で23分40秒、同点に追いつく。このまま延長かと思われたが24分26秒、小松工業再び5番和田の得点でこの試合初めて小松工業が22—21とリード。終了直前、小松ディフェンスのファウルで横浜商工にノータイムフリースロー、最後のワンスローに延長の望みを賭けるが小松工業のディフェンスの手に当たり終了。

両試合とも今選抜大会の中でも屈指の好ゲーム、ハンドボールの醍醐味を十分に堪能することができた試合であり、会場に詰めかけたみんなが満足して帰ったと思う。このような試合が一つでも多くなるならばきっと、もっともっとハンドボールファンが多くなると確

信できます。
　最終日、女子決勝戦。どちらのチームが勝っても初優勝。少々硬さが感じられるなか試合開始の笛が鳴る。前半8分までは3－3の互角。しかし洛北はその後12分間無得点。その間、熊本女商は一野を中心に着々と得点を重ね、10－4で前半を終了。後半、洛北に疲れがみられ、前半の得点差を縮めることができず、逆に熊本女商のフォーメーションプレーでの得点、またスカイプレーの得点と熊本ペースのまま試合が終了した。
　同じく男子の決勝もどちらが勝っても初優勝。前日の興奮がまだ選手の中にも残っているなか、決勝戦が開始された。小松工業が前日の勝敗を決めた5番和田で開始15秒で先取点。引き続き6番中谷のカットインで2－0。しかし香川中央3番高田、7番所等で得点を重ね前半8－6、2点リードで終了。後半に入っても6番池浦、7番所のポストシュート等で得点を重ね、小松工業の得点を後半4点に押え18－10と、8点差で勝利を手にした。
　連日熱いドラマを演じてくれた選手の皆さん、本当にありがとうございました。大会が成功裡に無事終ることができたのも、ひたむきなあなた方のプレーのおかげと思います。夏のインターハイにはもっともっとすばらしい試合をたくさん見せて下さい。

男子成績

学校	地区
浦和学院高	(関東・埼玉)
此花学院高	(大　阪)
市立岐阜商業高	(東海・岐阜)
学法石川高	(東北・福島)
北陸高	(北信越・福井)
釧路湖陵高	(北・北海道)
拓殖大第一高	(東　京)
市立桜台高	(愛　知)
伊奈高	(関東・茨城)
熊本市立商業高	(九州・熊本)
富雄高	(近畿・奈良)
下関中央工業高	(中国・山口)
香川中央高	(四国・香川)
東岡山工業高	(中国・岡山)
横浜商工高	(神奈川)
北嵯峨高	(近畿・京都)
岡崎城西高	(開催地)
大分電波高	(九州・大分)
不来方高	(東北・岩手)
高知東高	(四国・高知)
四日市工業高	(東海・三重)
小松工業高	(北信越・石川)
札幌琴似工業高	(南・北海道)
育英高	(近畿・兵庫)
二松学舎大附沼南高	(関東・千葉)
久留米工大附高	(九州・福岡)

対戦	スコア
此花学院高 － 市立岐阜商業高	22－12
学法石川高 － 北陸高	16－27
釧路湖陵高 － 拓殖大第一高	11－28
伊奈高 － 熊本市立商業高	15－20
富雄高 － 下関中央工業高	19－20
横浜商工高 － 北嵯峨高	25－11
岡崎城西高 － 大分電波高	20－21
高知東高 － 四日市工業高	15－34
小松工業高 － 札幌琴似工業高	31－11
育英高 － 二松学舎大附沼南高	22－16
浦和学院高 － 此花学院高	15－18
北陸高 － 拓殖大第一高	25－14
市立桜台高 － 熊本市立商業高	18－13
下関中央工業高 － 香川中央高	15－20
東岡山工業高 － 横浜商工高	13－24
大分電波高 － 不来方高	21－13
四日市工業高 － 小松工業高	16－18
育英高 － 久留米工大附高	16－28
此花学院高 － 北陸高	19－25
市立桜台高 － 香川中央高	16－29
横浜商工高 － 大分電波高	20－18
小松工業高 － 久留米工大附高	17－11
北陸高 － 香川中央高	17－18
横浜商工高 － 小松工業高	21－22
香川中央高 － 小松工業高	18－10

優勝　香川中央高(初)

女子成績

学校	地区
東海女子高	(愛　知)
華陵高	(中国・山口)
氷見高	(北信越・富山)
熊本女子商業高	(九州・熊本)
釧路湖陵高	(北・北海道)
栃木女子高	(関東・栃木)
初芝橋本高	(近畿・和歌山)
今治東高	(四国・愛媛)
大分東高	(九州・大分)
昭和学院高	(関東・千葉)
養老女子高	(東海・岐阜)
聖和学園高	(東北・宮城)
夙川学院高	(近畿・兵庫)
文化女子大附杉並高	(東　京)
洛北高	(近畿・京都)
大曲農業高	(東北・秋田)
水海道第二高	(関東・茨城)
名古屋短大附高	(開催地)
浦添高	(九州・沖縄)
城北高	(四国・徳島)
札幌月寒高	(南・北海道)
宣真高	(大　阪)
山陽女子高	(中国・広島)
暁高	(東海・三重)
明倫高	(神奈川)
仁愛女子高	(北信越・福井)

対戦	スコア
華陵高 － 氷見高	12－20
熊本女子商業高 － 釧路湖陵高	26－6
栃木女子高 － 初芝橋本高	21－15
大分東高 － 昭和学院高	12－17
養老女子高 － 聖和学園高	16－23
洛北高 － 大曲農業高	21－17
水海道第二高 － 名古屋短大附高	19－10
城北高 － 札幌月寒高	25－13
宣真高 － 山陽女子高	19－10
暁高 － 明倫高	19－17
東海女子高 － 氷見高	20－16
熊本女子商業高 － 栃木女子高	26－9
今治東高 － 昭和学院高	10－17
聖和学園高 － 夙川学院高	15－13
文化女子大附杉並高 － 洛北高	13－15
水海道第二高 － 浦添高	18－19
城北高 － 宣真高	9－26
暁高 － 仁愛女子高	14－16
東海女子高 － 熊本女子商業高	11－18
昭和学院高 － 聖和学園高	14－11
洛北高 － 浦添高	22－14
宣真高 － 仁愛女子高	15－18
熊本女子商業高 － 昭和学院高	21－13
洛北高 － 仁愛女子高	15－12
熊本女子商業高 － 洛北高	16－7

優勝　熊本女子商業高(初)

選抜大会に競技補助員として参加して

愛知県立名古屋西高校　村上　慶子

　去年のあの感動が再び……。待ちに待った選抜大会。私は幸運にも補助役員として去年に引き続きこの大会に参加することが出来、試合を見るだけでなく、他の面においても、すばらしい経験をすることができました。唯一全ての試合を観ることができなかったのが残念でしたが、私が観た試合の中で最も印象に残ったのは、男子準決勝の北陸－香川中央高校の試合でした。決勝を目の前にして、両チームともに、お互い引けを取らない接戦でした。一方が得点をすればすかさずもう一方が得点する……。どちらが勝ってもおかしくない試合でした。私はそれまで北陸高校の方の試合を観ていたので、どちらかと言うと北陸高校を応援していたのですが、どちらのチームのプレーでも、すごいと思ったプレーには知らず知らずのうちに拍手をしていました。試合を観ている途中に、ふっと「いま、試合をしているのは高校生で、しかも私と同級生か1つ年下なんだ」と考えると、思わずうなってしまいました。本当にとっても同じ年齢とは思えないほど、凄いと思いました。
　結局、試合は18－17で香川中央高校が勝ち、また最終的には優勝することになった訳ですが、スコアに関係なく、私はこの愛知県体育館で戦った全ての選手たちに拍手を送りたいと思います。
　この5日間、とっても充実し、また感動の日々でした。

第2回JOCジュニアオリンピックカップ報告

男子は富山選抜、女子は熊本選抜が優勝



昨年から始まった未来の「オリンピック有望選手」発掘を第一の目的とした「JOCジュニアオリンピック大会」が、大阪府堺市にて3月26日、27日の両日に開催された。

記念すべき第1回は、男子では北海道選抜が優勝するといったフレッシュな大会に実にふさわしいフィナーレを迎えたが、果たして今回はどんなヒーロー・ヒロインたちが現われるのか期待も大きい。

前回、選抜チームを組んで大会に臨んだのは全20チーム中、6チームに過ぎなかったが、今回は女子で連続出場を果たした矢田中学（東海・愛知）のみが単独となり、大会の第一義を考えると、数多くの学校から選手が選ばれ、出場することが可能になったという点では着実に浸透してきたといえよう。

出場チームは前回同様、全国9地区の代表に開催地の大阪府代表を加えた男女各10チーム。

■男子

▼1回戦

【富山選抜―兵庫選抜】

前半、川西らの力強い攻撃で試合の主導権を握った富山選抜が、後半に入って反撃に転じた兵庫選抜の反撃をかわした。兵庫選抜は後半、2度の退場者を出した後の連続失点が痛かった。

【福島選抜―群馬富岡選抜】

6校からの選抜チームの福島選抜と4校からの選抜チームの群馬富岡選抜との争いでは、コンビネーションがうまくかみあわないのか、序盤は比較的静かな動きだったが、徐々にペースをつかんだ群馬富岡選抜が差を広げていった。

▼2回戦

【浦添市選抜―北海道選抜】

記念すべき第1回大会で見事に優勝を果たし、昨夏の全国中学校大会でも主力選手に選抜されていた凌雲中がベスト4に進出するなど、一躍注目を集めている北海道選抜。前半は浦添市選抜と大接戦を演じたが、神森中を中心にまとめた浦添市選抜が攻守の切り替えをうまくして主導権を握り、北海道選抜の連覇の夢を打ち砕いた。

【香川選抜―山口選抜】

序盤戦は互角の展開。山口選抜はどこからでも得点できる攻撃の広さもあり、体格でも勝っていたが、香川選抜は前回大会・全中と2度の全国大会を知っているメンバーがいる経験の強みがものを言わせたのか、接戦を制した。

【三重選抜―富山選抜】

前回も経験しているメンバーを4人揃えている三重選抜だったが、富山選抜の力強く積極的な攻撃には防戦一方のままで終ってしまった。

【群馬富岡選抜―大阪選抜】

立ち上がりは両GKの好守が目立ち、仲々ゴールを割ることができない。試合が進むにつれても両チームとも決め手を欠き、ロースコアのままで試合終了。大阪選抜は地元の大声援を受けながらも、

★JOCジュニアオリンピックカップ最優秀選手賞

■男子の部

北海道選抜	CP	前田	誠一	(室蘭市立本室蘭中学校2年)

■女子の部

熊本選抜	CP	前田	美穂	(本渡市立佐伊津中学校2年)

★大阪ハンドボール協会JOCジュニアオリンピックカップ最優秀選手賞

北海道選抜	CP	前田	誠一	(室蘭市立本室蘭中学校2年)
熊本選抜	CP	前田	美穂	(本渡市立佐伊津中学校2年)

★オリンピック有望選手候補

北海道選抜	CP	前田	誠一
北海道選抜	GK	町出	智也
熊本選抜	CP	前田	美穂

★ベスト7

■男子

富山選抜	GK	森	雅之	(氷見市立西條中学校2年)
富山選抜	CP	川西	優作	(氷見市立呉羽中学校2年)
富山選抜	CP	北川	博隆	(氷見市立西條中学校2年)
浦添市選抜	CP	与世田拓郎		(浦添市立神森中学校2年)
浦添市選抜	CP	仲吉	邦晃	(浦添市立神森中学校2年)
香川選抜	CP	山地	洋平	(牟礼町立牟礼中学校2年)
北海道選抜	CP	町出	智也	(函館市立凌雲中学校2年)

■女子

福島選抜	CP	国分真理子		(本宮町立本宮第1中学校2年)
富山選抜	CP	早船	愛子	(氷見市立南部中学校2年)
愛知選抜	CP	田倉	千里	(名古屋市立矢田中学校2年)
愛知選抜	GK	安達多華美		(名古屋市立矢田中学校2年)
京都選抜	CP	大門喜久美		(田辺町立大住中学校2年)
山口選抜	CP	上村	典子	(徳山市立住吉中学校2年)
大阪選抜	GK	三原	裕子	(豊中市立第十三中学校2年)

前回に続いて緒戦敗退となってしまった。

▼準決勝

【富山選抜―浦添市選抜】

北川、川西の両フローターの力強い攻撃を中心に積極的な戦い方で勝ち抜いてきた富山選抜に対して、前回も1年生ながらチームの中心として活躍した与世田のロングが効果的に決まる浦添市選抜との争いは、皮肉にも前回の準決勝と同じ対決（前回は富山選抜―神森中）となり、いわば浦添市選抜の「雪辱戦」。両チームともスピード溢れる展開を繰り広げているだけに見ごたえは大きいことが予想される。

開始早々、エース川西のカットインで先制した富山選抜だったが、浦添市選抜も与世田の連続7MTが決まる。6分過ぎあたりから富山選抜がリードして、浦添市選抜も必死に食い付いて行く展開は、両チームともミスが少なく、実に緊迫感がある。結局11―7と富山選抜がリードして前半を終了。

後半に入り5分過ぎ、これまで主導権を握られていた浦添市選抜は吉元のシュートを皮切りに与世田らのカットインなどで4連取、13―12と1点差に追い上げる。直後に富山選抜も茨木のシュートが決り14―12。何とか追い上げの勢いを止めたくない浦添市選抜は東恩納と与世田の連続シュートで10分過ぎ、14―14とついに同点に追いつく。15分16―16までシーソーゲーム。だがこの間、富山選抜も踏ん張り、GK森が7MTを3本連続シャットアウト。再び主導権を握り、最後は力尽きたのか浦添市選抜は終了直前に二人の退場者を出して万事休す。23―18と富山選抜は前回に続いて決勝進出を果たした。浦添市選抜は再び富山選抜の「軍門」に敗れ去った。

【香川選抜―群馬富岡選抜】

それほど傑出した選手はいないが、チームワークで勝ち進んで来た両チーム。ともに多くの中学校から選抜されたとあって（香川選抜5校、群馬富岡選抜4校）コンビネーションが課題だが、合同練習でお互いの長所を高めあってきただけあって試合を重ねるごとに力が発揮されてくる。

先手をとったのは香川選抜。フローター山地の速攻とカットインの連続シュートが決まる。だが群馬富岡選抜もあわてず、桐淵のポストシュートなどの3連取。15分過ぎまでセット中心の攻防が続く。前の富山選抜―浦添市選抜戦が終始速い展開で繰り広げられただけに余計ゆったりと感じる。15分過ぎ、群馬富岡選抜が退場にあった後、香川選抜の3連取があり、7―5で折り返す。

後半開始早々、香川選抜はいきなり退場者を出すが、ここで群馬富岡選抜は7MTを外す。ともに自分たちのペースに仲々乗れずに飛び出すことができない。若干香川選抜リードのまま序盤から終盤近くまで迎える。15分過ぎ、香川選抜は連続して退場者を出すが、何とか乗り切り、13―12のロースコアでの接戦は香川選抜が勝利をおさめ、嬉しい決勝進出となった。

▼決勝

【富山選抜―香川選抜】

連続して決勝進出を果たした富山選抜は終始速い攻防での展開で、GK森の好守からの速攻やフローターのミドルを武器にし、高い得点力を持っている。対する香川選抜はそれほど得点力はないが、セットでの攻撃を主体に着実に勝ち進んできた。

勝敗の行方はハイスコアなら富山選抜、ロースコアの展開に持ち込めば香川選抜となることが予想される。

開始間も無く富山選抜は7MTを得るが、さすがに緊張のためかこれを外す。が、先手は富山選抜が取る。負けじと香川選抜が返す。16分過ぎまで一進一退の攻防が続き、11―11。まさに決勝戦にふさわしい好ゲーム。終盤の3連取で13―11と富山選抜の2点リードで後半を迎える。

ハイスコアに強いのが富山選抜。じわじわと引き離しにかかる。速い展開に持ち込まれ、香川選抜は単発的に決まるだけで一方的に富山選抜がペースをつかみ、28―16の大差で前回の雪辱を果たした富山選抜が優勝を飾った。

■女子

▼1回戦

【熊本選抜―京都選抜】

前回は佐伊津中の単独チームで準優勝、夏の全中でもベスト4と力は折紙付き。しかも前回のメンバーが6人残っている熊本選抜に対して、5校からのメンバーで構成された京都選抜との一戦は熊本選抜が終始力強い攻防を見せた。

【北海道選抜―香川選抜】

両者とも昨夏の全中に出場した学校（北海道は凌雲中、香川選抜は香川一中）を主体にチームを作り上げてきたが、北海道選抜は力を発揮できずに終ってしまった。

▼2回戦

【山口選抜―矢田中学】

今大会唯一の単独チームである矢田中は前回ベスト4、昨夏の全中では優勝を飾った「実力チーム」。対する山口選抜は強豪相手に大接戦を演じ、館内を沸かせたが、最後は経験の差か。

【埼玉選抜―熊本選抜】

コンビプレーで定評のある県の埼玉選抜も、優勝を狙う熊本選抜の前にはなす術もなかった。

【香川選抜―大阪選抜】

1年生を中心にしてチームを作ってきた大阪選抜が終始危な気ない展開で香川選抜を下した。

▼準決勝

【熊本選抜ー富山選抜】

男子並みのロングを放つ前田を中心に、ここまで圧倒的な力で勝ち進んできた熊本選抜に対し、サウスポー早船のシュートからチームを組み立てて行く富山選抜との対戦は前回の決勝カード。

立ち上がり熊本選抜はミスがあり、先手は富山選抜。エース早船の連続シュートが小気味よく決まった。熊本選抜はエンジンのかかりが悪く、仲々相手ゴールを割ることができない。そんな中で攻撃のリズムを作ったのは右サイドの原田。ディフェンスをかわしてのシュートが連続して決り始める。

富山選抜は警告や退場が多く、苦しい展開。だが熊本選抜も強引なロングが多く決して本調子とはいえない。後半に入り強引さがなくなった前田のシュートが決まる。

富山選抜は早船が完全にマークされては攻撃のリズムがつかめない。終盤単調なロングを放ってはミスしての逆速攻にやられ、熊本選抜が前回の雪辱を果たし、連続しての決勝進出。

【矢田中学ー大阪選抜】

前回1年生ながらミラクルキーピングを見せた安達を中心に堅いディフェンスをもつ矢田中。対する大阪選抜は全国でも非常にめずらしい「おしどりスタッフ」での登場。

各自の個性を大切にして練習を積み重ねてきたという大阪選抜が田井の連続速攻で先手をとる。矢田中ベンチはさかんにロングをうながすが、思いどおりにいかない。前半はともに決め手を欠いたまま5−5で終る。

後半は両チームGKの好守で膠着状態が続く。12分過ぎ、大阪選抜は島田の7MTが決り、やっと得点が動く。前回に続いて準決勝で敗退した矢田中は後半シャットアウトを食らってしまった。大阪選抜は非常にうれしい開催地での決勝へと駒を進めた。

▼決勝

【熊本選抜ー大阪選抜】

前回の敗戦を教訓にリラックスムードで決勝に臨んだ熊本選抜。優勝を狙う裏には練習相手となった松橋高校相手に、引き分けにまで持ち込むことができたチーム力を信じているスタッフ。とにかく紅白戦形式の練習が主だった大阪選抜がどのようにして挑むか。

試合は序盤から積極的にシュートを狙ってくる熊本選抜に対して大阪選抜も必死に食い下がる。だが時間が進むにつれ経験に勝る熊本選抜が徐々に飛び出して行く。前半は7−4と大阪選抜大健闘。

後半に入ると総合力の差が出て一方的となり、16−6と熊本選抜は前回決勝での苦い涙を歓喜に変えた。大阪選抜もここまでこれたことに対しチームスタッフも満足感を得ていた。

今大会も全日本男子チームが前日に公開練習を含めた「ハンドボール・フェスティバル」や、試合後のアドバイスなどさまざまな交流を繰り広げ、大会を盛り上げた。そして、この大会のためにご尽力いただきました関係各位に対し、深く感謝致します。（臼井鉄久）

男子

チーム	地区				
三重選抜	（東海）		11		
富山選抜	（北信越）	15	22	23	28
兵庫選抜	（近畿）	14			
沖縄選抜	（九州）		22	18	
北海道選抜	（北海道）		17		
香川選抜	（四国）		16	13	16
山口選抜	（中国）		14		
福島選抜	（東北）	7			
群馬選抜	（関東）	19	8	12	
大阪選抜	（開催地）		6		

決勝 13−11 15−5　富山選抜（初優勝）

女子

チーム	地区				
埼玉選抜	（関東）		6		
熊本選抜	（九州）	22	20	19	16
京都選抜	（近畿）	6			
富山選抜	（北信越）		16	9	
福島選抜	（東北）		12		
山口選抜	（中国）		12		
愛知選抜	（東海）		13	5	
北海道選抜	（北海道）	7			
香川選抜	（四国）	23	5		
大阪選抜	（開催地）		16	8	6

決勝 7−4 9−2　熊本選抜（初優勝）

男子有望選手選出にあたって

男子ナショナルチームコーチ　関　健三

第2回JOCジュニアオリンピック大会は3月26日、27日の両日、大阪府堺市立大浜体育館、金岡公園体育館で男子・女子各10チームの選手が参加して行われました。

この大会の目的は、ジュニア競技大会の資質向上を図ると同時に優秀なジュニア選手の表彰制度を設け、将来オリンピック大会や世界選手権等において活躍する選手の表彰と認定を行う一環としての強化事業である。

男子は各ブロック大会を勝ち上がった10チームによるトーナメント戦で、1回戦から熱戦が続いた。特に2回戦の北海道選抜と沖縄選抜の試合は、スタートから一進一退の攻防で内容も素晴らしかった。北海道選抜の試合巧者に対して、沖縄選抜は荒削りながら身長180cmの前田誠一が左腕からロングシュート、フリースローからのジャンプシュートと大活躍でしたが、後半力尽き、沖縄選抜に敗

れてしまいました。最優秀選手になった彼の特長は、ジャンプ力があること、ボールスピードがあること、そしてシュートフォームのバランスが良く、もう一試合見たかった選手である。

優勝した富山選抜は全員がまとまったチームで、一試合一試合ゲームをするたびに強くなっていった。中心選手の川西優作君（168㎝）、決勝で活躍した北川博隆君（177㎝）、キーパーの森雅之君（180㎝）など、皆将来有望な選手である。この大会に出場した選手の中に180㎝以上の選手が6名、175㎝以上が16名出場した。

この大会を振り返ってみて、将来オリンピック選手を目指す選手の発掘を考えるならば、もっと広く選手を選抜してほしいと思う。それからチームが勝負に固守して、ジュニア選手からハードな練習をしすぎであると思う。なぜなら、膝にサポーターをしている選手が何人もいたからである。それともう一つ、ボールも考えて頂きたい。安全度からも手縫いボールの方がよい。そしてジュニア期から松ヤニを使ったプレー、基本に忠実なプレーを教えることが将来のためだと思います。

おわりに、この大会が益々発展して、ここを巣立った選手が日本のトッププレイヤーになり、近い将来、活躍してメインポールに日の丸を揚げてほしいものです。


表彰される熊本選抜

女子有望選手選出にあたって

女子ナショナルチーム監督　緒方　嗣雄

第2回JOCジュニアオリンピックカップが、3月26、27日に開催されました。JOCが中学生を対象として各種目から将来の日本スポーツ界を担う選手発掘を目的として行われる大会である。

この大会で、有望選手の選出とベストセブンの選出と大変重要な役を賜り、責任を感じました。

試合前日、指導普及担当理事・小西氏、全日本男子監督・蒲生氏、中体連・真田氏、溝口氏、そして私を加えた5名で選考基準等の会議を持ち、選考に対する意見を交換した。現時点で出来上がった選手でなく、これからまだまだ身長も伸びて、運動能力にも優れた選手を選ぶことで一致した。各チーム監督より前以て推薦調書を準備して頂き参考にできた。推薦されている選手のプレーを中心として他の選手にも目を向け、幅広く試合観戦ができた。

推薦されている選手のプレーは、やはりずば抜けたものがあり、テクニックも高度でシャープであるのには驚かされた。ただ残念だったのは両面テープを使用しているため、試合後半になると粘着力がなくなり、パスミスが多くなる。ワックス、スプレー等を使用して思い切りプレーさせたいものである。少し気になったことは、パス、シュートは非常によくなってきているが、キャッチングが下手な選手が多いのには驚いた。この時期が一番大切な時期であり、基本プレーを忠実にマスターすることに心がけて頂きたいと思います。基本練習はきついことばかりで面白くなく、飽きてしまいそうになりますが、根気よく続けることが大切と思います。

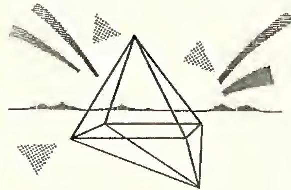
1回戦、2回戦と試合を重ねて行くほどミスも少なく、コンビネーションもよく、楽しく試合展開を見ることができた。チームとして既に出来上がったチームがあり、多彩な展開力からの得点、特に目を引いたのがステップシュートの得点、ポジション、タイミング申し分なくスムースにシュートが打てることと、フェイント動作であるが両足ストップフェイント、切り返しフェイントと高度なテクニックを使いこなしているところに感心させられた。

有望選手選考には、推薦して頂いた指導の先生方の意見を重視すると共に、両親の身長をも参考にして8名の選手を選考致しました。特に、この大会で目についたプレーヤーは、ゴールキーパーが多かった。体格的に優れ、また俊敏であり、キーピングも安定している。またコートプレーヤーも個性的なプレーが多く、高度なテクニックをいとも簡単に使いこなしているのには驚かされた。

この8名の中より、一名のJOCジュニアオリンピックカップ最優秀選手の選出にいろいろな意見が出た中より、熊本選抜チームの前田美穂選手が優勝に大きく貢献し、また得点能力も高く、プレーに柔軟性があり、将来性も十分と判断し選出致しました。今後は更に大きく飛躍し、全日本チームの一員として活躍してくれることを期待致します。

最後になりましたが、本大会が益々の発展と発掘、育成にご尽力下さいますようお願い申し上げます。

国際A級審判に合格して



日本の体力維持を痛感

浜田　浩和

この2月21日から26日の6日間、日本で初めてのIHF・Aレフェリーコースが開催されました。そのコースに日本からは武智・松原ペアと私たちが受け、韓国2ペア、中国、台湾が各1ペアの6ペアが受けた。日本人としては、もう10年以上もこのコースに参加していないので、情報集めが大変ではあったが、関東近県の国際審判の方々がコースのスタッフとしてアドバイスをして下さったりしたので心強いものがありました。

まず私たち日本人受講生は、スタッフと一緒にIHF役員と他国の受講生を成田と羽田に出迎えに行き、21日夜のウェルカムパーティーに参加した。このパーティーには日本協会からも渡邊副会長が出席して頂き、無事終ると同時に、明日からのコースに私たち受講生は緊張感を増すばかりでした。

22日朝、ホテルを出発し、9時から大崎電気工業㈱会議室でオープニングセレモニーと講義が行われた。IHF役員でPRCのボルスタッド（ノルウェー）とパク（韓国）両氏の挨拶があり、私たち受講生はそれぞれ英語で自己紹介をした。それから簡単にボルスタッド氏からはIHF役員組織について、パク氏からはAHF役員組織についての説明がされた。

休憩後、ボルスタッド氏よりペーパーテストの説明がされた。英文テスト30問、解答は4択で、8割以上の正解がないと不合格であると。そして、まず準備運動をするので、各自席をバラバラに離れルールブックと辞書は利用してよいと、テストが行われた。内容は、次の文がルールブックの何条の何の文章であるか答えよという12問を行った。

この英文テストが毎日行われたこと、毎朝9時から12時まで英語による講義が行われたことからも、語学の重要性を改めて感じさせられた。それも、ペアの2人が共に理解出来なければならないことも。

昼食後、午後1時半より体育館で審判実技が行われた。大崎電気、国士舘大、日大のモデルゲームを22、23日で各3試合、1ペア1試合を担当した。実技の講評は翌日の講義でボルスタッド氏より細かく指導された。その中で、私が指導された点は、CRの際に動き過ぎで選手にも神経質な審判であると感じさせる。国際審判員はもっと威厳のある態度で笛を吹く様にと言われた。25、26日の両日でも、前半2日間と同様に、午前中ペーパーテスト、午後実技が3試合ずつ行われ、ボルスタッド氏からの指導を十分に踏まえ、実技に臨んだ。講評の中でも改善出来ていたとボルスタッド氏より言われ、少なからず気持ちが落ち着いた。

実技・ペーパーテストの合間の24日、自衛隊体育学校の体育館及びトラックで体力テストが行われた。5種類の体力テストは体育館でそれぞれエリアと走り方（含むサイド・バックステップ）が決められ、何秒で走らなければならないと。そして、トラックでは12分間以内で2400mを完走する。この体力テストもクリアしなくてはならなかった。この体力テストが思ったよりハードなので、日頃の体力維持も重要であることを感じさせられた。

この様なハードな5日間の実技・講習を終え、私たちが一番感じたことは、ヨーロッパのレフェリーは奥が深いのだろうということである。何故なら、このコースの中で、ボルスタッド氏が私たちに求めていたことが、私たちの考えていたものと大分違いがあるということ。そして、そのことは私たちのこれからの活動の中で明かして行かなくてはならないということである。

最後になりましたが、無事このコースを終えるにあたり、日本ハンドボール協会の先生方、会場等でご尽力頂いた大崎電気工業㈱、自衛隊体育学校、大塚審判委員長をは

じめとするスタッフの皆様、そして全国からご支援頂いた審判の先生方、誠にありがとうございました。私たちは新たに、これからスタートしていきますのでよろしくお願い致します。

新たな目標に向かって

小笠原　久郎

このたび日本で初めて国際Aレフェリーテストが開催され、幸い浜田浩和氏とレフェリーテストに受験させて頂きました。IHF・PRCからは、次期委員長のオイブント・ボルスタット氏とパク・チョンシュ氏が講師として来日されました。

テストは5日間の日程で行われました。最初の2日間については、午前中はボルスタッド氏の講義が行われました。講義は全て英語で実施されました（通訳は当然付きません）。午後からは、レフェリングのテストになります。各ペアが2ゲームずつ担当しました。このAテストを実施するためのマニュアルは、IHFのハンドブックの中に記載されています。そこには、テストに必要なあらゆる物まで書かれています。試合形態の条件、400mのトラック、講師に支払うべき日当の金額等々。

2日目、講義が始まったとたんに、各受験者に対して、ペアと離ればなれにそれぞれ1名ずつ座る様に命じられました。それは、ペーパーテストをするということです（今まで諸先輩から聞かされていたことは、ペーパーテストは二人で解答することが出来るという経験談を頂いたことがありました）。ところが一人ずつ1日10問を3日間テストされることになりました。30問中24以上の正解がなければなりません。問題自体はIHFが公表している問題集の中から10問ずつ出題されました。また、辞書の使用が認められていたため、時間一杯辞書とにらめっこが続きました。



受講した各国ペア

3日目は、体力テストの日にあたりました。このテストは5種類のフィットネステストとクーパーテストがあります。フィットネステストは体育館で行われました。5種類のテストは全て設定時間が決められており、その範囲内であれば合格ということです。フィットネステストは、ジグザグ走やバック走、サイド走といったものの応用からなりました。

その後、クーパーテストが400mトラックで行われました。このテストは、2400mを12分以内で走るテストでした。スタート直前にボルスタッド氏は貴重なアドバイスをされました。「ペアで走りなさい」。このアドバイスはレフェリーはいかなる時でもペアリングなんだとつくづく痛感致しました。浜田氏に励まされながら、走り終えることができました（この体力テストにおける実施マニュアルもIHFは作成されていました。その中には、健康診断書の提出もありました）。この時点でテスト日程の半分が消化され、残り2日間はペーパーテストと実技テストです。最初の2日間で各ペアは1試合ずつ実技テストを終えていましたので、後半の2日間で2回目のテストが行われました。前半の実技テストでのアドバイスがボルスタッド氏、パク氏より頂きましたので、2回目の実技テストでは、1回目に指摘されたことをクリアする様心がけて臨みました。

2月26日夕方にサヨナラパーティーの席上で、合格の発表がなされました。多くの関係者に見守られながら、浜田氏の後に私の名前が呼ばれ、渡邊副会長からはデプロマを、ボルスタッド氏からはIHFのピンを、そしてパク氏よりシルバーエンブレムを手渡されました。シルバーエンブレム（青ワッペンのこと）をブレザーのポケットに入れ、はやる気持ちを抑え、各受験者と無事テストを終えることが出来たことを喜びました。浜田氏とガッチリ握手することが出来ました。

このテストを受験するにあたり、皆様には、ご支援、ご協力を頂き感謝の気持ちで一杯です。雑務的なお手伝いを、ボランティアでして下さった島田先生（千葉県）、ありがとうございました。また、小南議員の精力的なご支援にもお礼申し上げます。

国際審判員だからとかD級だからとかではなく、コートに立ったら皆同じ審判であり、終了の合図まで、精一杯責任をもって審判しなければなりません。国際審判員OBのことばを紹介します。

「審判をうまくなりたければ、人格を磨け」

このことばを忘れることなく、日々努力してゆきたい。次の目標に向けてスタートラインに立つことができました。ゴールラインは遥か彼方です。

コーチ・レフェリーシンポジウム報告

指導委員長　大西武三／審判委員長　大塚文雄

平成6年3月11日～13日の3日間、東京の駒沢大学で開催されたコーチ・レフェリーシンポジウムは、私たち現場をあずかる者として、何年来の待望の企画である。日本を代表するコーチとレフェリー約130名を集め「ハンドボール　2000」をメインテーマに将来の日本のハンドボールの在り方をめぐり、活発な意見交換をした。

◎第1日

開幕基調講演として、まず大塚審判委員長から平成3年度のコーチ・シンポジウムにおける日本リーク・大学チーム・高校トップチームのコーチより見たレフェリーの問題点を取り上げた。続いて大西指導委員長から日本のハンドボール関係者が、どのようなイメージで将来に向かって進んで行けばよいのか、日本の目指す道は…？と問題提起をした。

☆講演I
「メディア界から見たハンドボールの将来」

HNK　杉山　茂氏

TVを含むメディアはスポーツを商品として見て入る。よい商品とは、よい試合、堪能できる試合をすることである。その意味でTV局側から見たハンドボールはゴールエリアの空間が、いかにもTV向きでない。しかし、カメラアングル等を工夫してハンドボールの魅力を引き出す研究をして行きたい。

Jリーグが目を見張る隆盛を示しているが、これもTVなくしての発展はありえない。ハンドボールもTVとよい関係を保ちながら、全体のレベルアップをはかり、商品価値を高めてもらいたい。

☆講演II
「Jリーグまでの道のりと将来展望」

Jリーグ広報室長　佐々木一樹氏

サッカー界も今のJリーグで隆盛を見るまでに、今のハンドボール界と同じようにメジャー化のため、あらゆる努力をしたようである。そしてプロ化のため、約10年間活性化委員会で川淵氏を中心にじっくり協議・研究を重ね1993年、これ以上ないタイミングでJリーグを旗揚げした。この話はコーチやレフェリーより、むしろ日本協会のトップ役員に聞いてもらいたい話であった。Jリーグが今、一番恐れているのは怠慢プレーである。せっかく盛り上がったのに、これで一気につぶれる恐れもある。そこで外国のスタープレイヤーを補強して日本のプレイヤーのレベルアップをはかっているので、急速に日本人プレイヤーのレベルが向上した。そうなると激しいゲームが展開されるが、そこでレフェリーが問題となってくる。レフェリーはプレイヤーのレベルに一歩遅れをとった。今、外国からレフェリーを呼び、彼らが吹いた後や月1回の研修会でレベルアップに努めている。ちなみにレフェリーの待遇は、1試合5万円、トレーニング費用として15万円もかけているそうだ。

やがて、プロのレフェリーが誕生するようであるが、ハンドボールの世界とはかけ離れている。

☆「指導者分科会とレフェリー分科会」の開催

指導者分科会は資格問題など討論。レフェリー分科会は7mスローを中心に事例研究を行った。

◎第2日

☆「公正なレフェリーを目指して」

レフェリー　大阪協会　岸本　光夫氏

「公正な笛とは…」をテーマに講演された。概要は、ルールは力の接近したチーム間の競技や競技力・体力の接近したプレイヤー同士のプレーを念頭に記述されているが、実際にはこれと異なることがしばしば遭遇する。

・均等な笛：どのような事象においても全く同一の判定を行う。
・公平な笛：各々の事象の背景に応じて適切な判定を行う（情状酌量、違法性阻却など）。

レフェリーが笛を吹く場合、均等な笛を吹くのか、公平な笛を吹くのかでゲーム内容は大きく変わってくる。この事にコーチやレフェリーはどのように考えているのだろう。

☆「ハンドボールゲームは停滞している」

スウェーデンで行われた世界選手権大会の考察
（Handball training '93・11月号より）

コーチ　筑波大学　水上　一氏

スウェーデンで行われた世界選手権大会では、戦術的な新しさ、進歩、変革、そして傾向について問い掛けをしてみたが、答えは簡単、新しいものは何もなかった、と報告している。

☆討論会

「コーチからレフェリーへ、レフェリーからコーチへ」

座長　学連審判長　**佐野和夫氏**

・レフェリーの難しさ、公平・均等という問題やアドバンテージの問題が、一般的にわかりにくい。
・全国大会のレフェリー派遣の問題。
・コーチとレフェリーがお互いに信頼し合うことが大切である。
・レフェリーはどのくらい勉強しているのか？



☆討論会

「ハンドボールの活性化を目指して国内の新ルールの開発」

座長　A級コーチ　**川上整司氏**

「世界のルールに従っていくべきだ」との世論の中で、発達段階に応じた国内ルールがあってもいいのではないか。特に小・中学生のゲームにおける2分間退場は、試合時間に比べ長すぎるのではないか。また、退場させられたら、補充のプレイヤーが入れるように、など活発な意見があった。

☆「ハンドボール2000を目指しての提言、夢を語る」

日本協会普及担当常務理事　**小西博喜氏**

小学生ハンドボールの実態、中体連の実情、など地域に根ざしたハンドボールの普及が大切である。

☆「最新のレフェリー情報」

国際審判員　**後藤　登氏**

昨年9月にバーレーンで開催されたアジア選手権大会におけるレフェリーミーティングを中心に、世界のレフェリー界の考えを報告した。

☆分科会

「レフェリングをめぐって」

コーチ、レフェリーを5会場に分け、同一のビデオを見て意見の交換がなされた。
・各県により判定の基準が統一されていない。
・アドバンテージを見たとき、何らかのジェスチュアーがほしい。
・危険なプレーについて、指導者は日頃からそれらを回避するように指導してもらいたい。

ハンドボール界で一番身近で切実な問題のため、各分科会とも時間オーバーで、活発な討論が行われた。

◎第3日

☆講演

「新しいコーチング目指して ─医学から見たハンドボール」

1　整形外科の視点から

ハンドボール協会ドクター　**浜脇純一氏**

日本では練習のやりすぎが目立ち、プレイヤーはすでに戦える状態ではない。広島アジア選手権大会の決勝戦前、韓国のプレイヤーがテーピング・サポーターの装着が、日本よりずっと少なかった。もっとメディカルチェック、外傷、障害に対するコーチの理解を望む。

2　内科の視点から

ハンドボール協会ドクター　**坂本静男氏**

スポーツ選手にとって大切なことは、栄養のバランスとトレーニングの強度や量が、プレイヤー個々人により違うことを理解し、オーバートレーニングをしないように休養も大切なことである。

☆「世界の戦術と技術とそれに対応する全日本チームの強化策について」

全日本監督　**蒲生晴明氏**

男子ナショナルチームの状況について資料をもとに説明。また、世界の戦術について、特にディフェンスについて、オーバーヘッドプロジェクターを使用し説明があり、コーチサイドは真剣に耳を傾けていた。

☆「世界選手権誘致に向けての日本ハンドボールの活性化」

日本協会強化担当常務理事　**井　薫氏**

世界選手権大会誘致の概略から、ビデオを見ながら熊本の紹介。

今回、コーチとレフェリーが一堂に会し、講師の先生の話に耳を傾けたり、討議したりで、アッという間に3日間が過ぎてしまった。特にコーチとレフェリーの話し合いは、お互い現場の話になると話題がつきない。ここでの意見の統一を何らかの方法で、結論を出し全国に伝えたいと思う。

最後にこのシンポジウムの立案・企画・実施で指導委員会のメンバー、審判委員会のメンバーの方々には、本当にありがとうございました。

コーチ・レフェリーシンポジウム 参加者からの寄稿

コーチ・レフェリーシンポジウムに参加して

中京大学　大塚秀幸（C級公認コーチ）

今回のシンポジウムのテーマ「ハンドボール　２０００」は、将来のハンドボールの発展を目指したものであり、各地から公認審判、公認コーチ、そして各連盟から推薦された審判と指導者が駒沢大学に集まって開催された。シンポジウムの内容はテーマから推測されるような画期的な内容では決してなかったが、ここ数年来というよりも、むしろハンドボール競技が今日まで発展してくる過程で常に発生し解決されることのなかった、ベンチに位置取る監督・コーチと試合を管理する審判の両者に関する諸問題であった。

お互いに歩み寄ることがなかった両者が協会指導・審判委員会によって用意された資料や情報に基づき、お互いの認識の中で様々な意見や質問、そして要求が出された。見逃してはならないのは今回のシンポジウムの目的が単にプレーの判定を巡ってのものではなく、指導者にとっても技術・戦術論から指導論に密接な影響を持つ研修会であったことである。特に私が自分の認識不足を感じたのは、審判諸氏が単に判定のことだけではなく、技術や選手の安全について想像以上に深く研究されていたということである。これらのことは、一つの試合の勝敗にとどまることなくハンドボール競技の発展を考えてのことであり、シンポジウムの最終日に全日本男子監督である蒲生氏が言われた、ハンドボール界の発展は全日本の勝敗だけではなくジュニアレベルでの指導から全ては始まっているということにもつながるように思われる。

このようなシンポジウムは今回だけに限ることなく、様々な競技レベル、競技団体で活発に行われる必要があり、より多くの指導者や審判がこういった研修会に積極的に参加し、お互いの認識を高めることによって日本のハンドボール界の発展が期待され、そのことを強く感じさせられた意義あるシンポジウムであった。

コーチ・レフェリーシンポジウムに参加して

関西学連　吉田敏明

まず最初に「感想文」なるものとは、学生時代以来、縁もなく乱文をお許し下さい。

レフェリーとして参加した今回のシンポジウムでは、最新のレフェリング情報を収集し、それに対するコーチサイドの意見を聞き出すことを最大の目標としていたのですが…。

ルールブックの「ハンドボールの概念」にレフェリー、監督、コーチはもとよりプレイヤーもスポーツ理論一般、そして特にゲームにおけるマナーを理解しなければならないとある。

私はハンドボールについて考える時に、今まではレフェリーとしては正しい解釈と判定だけ、コーチとしては勝つための戦略・戦術だけにとらわれ、観点が非常に偏っていたことを今回のシンポジウムに参加して気付きました。

人間形成の上で広い視野を持ち、多面的に物事をとらえ分析することが重要であるように、様々な環境を受けながら形成されたハンドボール観を高めることが重要です。

危険なプレーに関するグループ討論会では、すべてのグループから厳しい判定を求めるだけでなく、危険なプレーをさせない指導をするとコーチサイドの意見として報告されました。

高められたハンドボール観では基本的な部分で同じ認識をコーチ・レフェリーに関係なく持っているのではないでしょうか。

あの審判の判定は不公平な笛だったと思われた点も、たまたまレフェリーのハンドボール観が一方のチームのハンドボール観に近かっただけではないのでしょうか。

コーチ・レフェリー・プレイヤー各々がハンドボール観を高めることによって、より多くの共通理解が生まれ成長し、さらにハンドボールが発展するのではないかと予感させてくれた有意義な三日間でした。

最後になりましたが、本シンポジウムでお世話いただきましたスタッフの皆様に、紙面をお借りし、お礼申し上げます。

熊本　ジャパーン!!

岩手県ハンドボール協会強化担当　中島昭博

シンポジウム最終日、井薫氏による熱のこもった世界選手権熊本招致に向けての話が記憶に新しい。英・独・仏の各国語で編集されたというプレゼン用VTRが映し出され、シュプレヒコールのように冒頭のことばが何度も叫ばれていました。こだまのような響きが耳に残っています。熊本の開催地決定を心から祈っています。

さて、今回のシンポジウムは、全国のコーチとレフェリーが日ハ協の声掛けのもとに一堂に会し、ハンドボールの今後の発展のために日頃抱えている問題点を出し合って現状を認識し合い、今後の手掛かりを探るためのものでした。C級コーチの肩書き

は頂いたものの、県の事情でチームを持てずにいる今の私にとっては、成年男子や県選抜の高校生や中学校の指導に役立てられることは何か、日本のハンドボールの発展に自分なりに貢献できることは何かを再認識したい一心で駒沢を訪れました。

大塚審判担当常務理事と大西指導担当常務理事それぞれからの基調講演を皮切りに、NHK報道局エグセクティブ・プロデューサーの杉山氏による「メディア&マネーに関わらずしてハンドボールの将来は危うい。普及の時代は終わり今やTVのエンターテイメントをめざして商品価値のある〝堪能できるゲーム〟を…」というお話を拝聴しました。次にJリーグ広報室長の佐々木氏からは「今のサッカーの隆盛は、小学校の教育課程に取り入られて子供たちが身近にサッカーを感じられたこと、ファンの目を日本リーグに向けてもらうためのソフトを積み重ね運営面でのプロ化に努めたこと、活性化委員会で検討し、森氏がビジネス化を進め、川淵氏のセンターフォワード張りの働きかけがあってプロ化がスタート、タイムリーにバブル経済に乗っかかったこと」大きかったが、50年、100年先を見越してヨーロッパ型の地域のクラブ形態をめざし、日本のスポーツそのものを変えていきたいという世代がハンドボールに親しめる受け皿が地域にあり、トップレベルのゲーム、時にはほのぼのとしたちびっこハンドをTVで見られる環境があって、そこから自然発生的にナショナルプレイヤーが育っていく。ハンドボールに関わっている人なら誰もが夢に見ていることと思います。スポーツを学校から開放して、地域に返すための方策をJリーグ活況のうちに本格的に検討して、ちびっこからナショナルまで（マスターも含めて）系統的にハンドボールに親しめる体制を構築したいものだと思います。その前提として、私をはじめスポーツ（ハンドボール）を支える側の指導者・レフェリーが多視点的観点で、他の分野とのフレンドシップを大事にしながら、スポーツ（ハンドボール）を発展させるために、お互いがレベル向上を図ることが必要条件でしょう。

指導者分科会では、指導体制（系）の一環化の困難さを痛感しましたが、この〝至難の業〟を遂行するのは協会と蒲生氏をはじめ、ナショナルチームのスタッフ以外にないと思います。岩手では、平成11年のインターハイ開催に向けて、平成3年に小中高一般の指導者に呼び掛け、意識の喚起と縦横の協力関係の結び付きの重要性を確認し合いました。ハンドボールを通じてより豊かな人間形成をめざしての模索でした。ハンドボール観の違う人々、それぞれの立場で目的を持った人々が一つにまとまるためにはリーダーが大きな目標に向かってスローガン（ハンドボールの発展とナショナルチームの活躍）を打ち出し、的確な広報展開を押し進めることが肝要かと思います。人的・経済的・社会的環境を整えてさらなるご健闘をお願い申し上げます。

レフェリング、スポーツ医学に関する内容では、存分な研修をさせて頂きました。ありがとうございました。

最後に、世界の桧舞台でのナショナルチームの活躍と、それを支えるみなさまのご健勝を祈念して筆を置きます。

ナショナルチーム始動

男子　1994年アジアNo.1を目指して

男子ナショナルチーム監督　蒲生　晴明

「1994年」今年は、広島アジア大会の開催される年であり、実に1964年に東京オリンピックが開催されて以来、夏季競技として30年振りの日本におけるビッグイベントである。アジア大会と言っても、その当時の日本スポーツ界は、アジアでは隆盛を誇っていた時代であって、ここ数年の中国、韓国の急成長は、目を見張るものになってきており、各競技ともなかなかメダルを取れない時代になってきている。そう言った意味では、日本は中国、韓国に「追い付け、追い越せ」の時代になってきていて、ハンドボール競技においても、インド(ニューデリー)の大会からスタートしたわけだが、今までのアジア大会での金メダルはない。そして、韓国、中国だけでなく、アラブ諸国も以前にまして強敵になっており、我々としては今回もチャレンジャーとしてゲームをしていく覚悟である。

しかしながらその前には、1995年アイスランドでの世界選手権大会の東アジア地区予選が5月に広島で開催されることになった。この大会においても、我々はチャレンジャーとして挑戦していくつもりである。

このような目標が、目前に迫ってきている中で、日本協会をはじめ各連盟の関係の方々のご配慮をいただき1月から10月まで、ナショナルチームの活動を優先していただいたことを大変感謝している。我々は、1月から長期にわたって、強化合宿を行ってきているところであり、3月には国内におけるナショナルチームのはじめての大会「チャレンジカップ」を開いていただいた。広島の関係の方々はじめ日本協会の方々にも感謝しているところである。

このチャレンジカップを実施したところ、いろいろな角度から、いろいろな関係の方々などたくさんのアドバイスをいただいた。この貴重なアドバイスを参考にするとともに、我々としての強化事項も明確になった。一つは、ビッグゲームに対するプレッシャー対策、もう一つは、チームの安定化であった。この2点については、プレッシャーのかかったビッグゲームを数多く体験することと長期的なトレーニングを実施することにより、確立していくつもりである。幸い、5月の世界選手権大会東アジア地区予選終了後、ヨーロッパ遠征を行うことになっている。この遠征において、チームとしての骨格を確立して行くことと何よりも国際大会での実績を上げていき、個人としての自信を獲得しチームとしての大きな自信にしていきたいと考えている。ナショナル選手が所属する各チームのように、「同じ屋根の下で、同じ釜の飯を食べ」、心も体も一つになったチームとなって、あたかも単独チームのようなナショナルチームにしていくことがチーム力の安定に繋ることと考えている。そして、6~9月は、ジャパンカップ・国内のサーキット合宿など環境等を変えながら、チーム力強化を図っていくことになっているので、国内のハンドボール愛好の皆様のご支援をいただきながら全力投球していく。いずれにしても、5月の世界選手権大会東アジア地区予選、10月広島アジア大会において、「アジアNO.1」なることのみを目標に、選手たちと努力訓練を実施していく覚悟である。

ご声援、ご支援をよろしくお願いしたい。

女子　アジア大会での金メダルを目指して

女子ナショナルチーム監督　緒方　嗣雄

10月に広島で開催されます今年度最大の国内イベント第12回アジア大会を目標にして、ナショナルチームがスタート致します。またこの大会は世界選手権の予選を兼ねることでもあり、チーム目標は韓国を破り、金メダルを取ることである。この目標達成のためには、長期合宿を張ること以外は考えられず、前回1991年以上の合宿計画を立案した。選手所属チーム

の理解を得て、また多大な協力を得てスタートができるところまで来た。実業団連盟の協力も得て、実業団大会もナショナル選手は出場しなくてよくなった。ハンドボール協会は、すべてのスケジュールを変更してアジア大会一本にしぼりナショナルチームの強化に専念できる状況を作って頂いた。我々には目標に向かって実施して行く道しか残されていない。

一．長期合宿準備

2月4日より10日までの1週間、ナショナル候補選手を集め、アジア大会までのスケジュールと目的を明確に提示し、理解を求めた。

もう一つの狙いである現時点の基礎体力の把握のため体力測定である。持っている力を精一杯出し切り、予想外の成績を上げた。ミーティングと測定を中心とした合宿であったが、一応の成果を得ることができた。次回合宿までの1ケ月間の個人体力向上を目指し、所属チームの練習以外にナショナルチームの一員としての個人練習の大切さを理解させ、練習を重ねることを期待した1ケ月間であったが。

3月4日より10日までの合宿では、前回同様の測定と長期合宿で実施する練習内容の実施。特に基礎体力アップに関する練習を中心とした。基本体力はパスワークを重点的に行った。あらゆるプレッシャーを掛けられた状態でも正確なパスができること、シュートも決めれること。繰り返し何度もやっているうちに惰性的に取り組むが、一番改善する点の基礎体力アップを図り、スピードで立ち向かえるように改善することである。長期合宿に備えて順調にきている。体力測定の結果、前回よりよくなっている個人及び種目が少なかった。これは測定条件の違いか、1ケ月間トレーニングを怠ったか。毎回のことではあるが、ナショナルチームとしての合宿中は成果がでるが、個人練習として期待した時は成果が上がらない。厳重に注意をし、4月9日スタート時点では、ある程度の身体の出来上がった状態で合宿のスタートが切れるよう期待する。

二．長期合宿スタート

4月9日、広島グランドホテルに集合し、新たに気を引き締め、目的に向かって前進したいと思っている。今回の長期合宿では、1ケ所に本拠地を決めず、転地合宿の予定（別掲）。

第一期の呉海上自衛隊では体験入学として、すべてのスケジュールは海上自衛隊にお願いした。目的は、生活環境はすべてが訓練であるその中で、①強い精神力を養い、人間形成を図る。②ナショナリズムの徹底。③チームワークの強化を狙いとする。

自衛隊施設の使用での合宿では、基本的なことを中心とする。まず基礎体力の向上である。この狙いはスピードアップと正確さである。体格を変えることはできないが、あらゆるトレーニングで体力アップは可能である。韓国、北朝鮮と同じ体格であり、それらの国に立ち向かうためには体力アップを図りスピードを付け、更に正確なプレーが勝つためのすべてである。

トレーニングとしては、サーキットトレーニング、陸上（ランニング）トレーニング、ジャンプトレーニング、ウェイトトレーニングをこの期間、徹底して行い、強化を図りたい。基礎体力トレーニングは合宿中継続する。

第二期、熊本では個人技術力の向上を狙い、第三期の栃木で戦術面を重点的に、第四期の海外遠征では、戦術の応用、コンビプレーのテスト、第五期は戦術の安定化と調整、第六期の広島、アジア大会まで調整と休養を充分に行い、本大会に万全の態勢で臨む所存です。全日本女子チームにご声援賜りますようお願い申し上げます。

全日本合宿日程

4月9日	集合（広島グランドホテル）	
10日 ～	呉海上自衛隊／体験入隊 （7日間）	①強い精神力を養い人間形成 ②ナショナリズムの徹底 ③チームワークの強化
16日 ～ 5月20日	海員会館（呉）／海上自衛隊施設使用トレーニング （34日間）	基礎体力の向上とスピードアップ／サーキットトレーニング／ウェイトトレーニング／ランニングトレーニング／ジャンプトレーニング
21日 ～	オムロン （26日間）	個人技術力の向上
6月15日 ～	日立栃木 （54日間）	戦術強化
8月8日 ～	米国及び欧州遠征 （26日間）	戦術の応用（コンビプレーテスト）
9月4日 ～	日立栃木 （22日間）	戦術の安定化・調整
25日 ～	広島選手村 （6日間）	調整・休養
10月1日 ～ 11日	アジア大会（広島）	（計175日間）

平成5年度 男子ジュニア

韓国遠征を終えて



監督 高橋 精一
コーチ 奥田 新治

今回の遠征は、世界学生選手権に出場する学生選抜候補チームとジュニアチームの2チームが同じスケジュールで実施した。

学生選抜チームは、監督・松井幸嗣、コーチ・松喜美夫両氏。ジュニアチームは我々二人が19名の選手を引率した。

ジュニアチームは2月16日午後1時、大和銀行に全員集合。携帯品の最終確認後、2時間程度の軽いトレーニングを行ってサニーストーンホテルに宿泊。

19日午後1時、韓国ソウルに到着。ソウル滞在中のスケジュールは鮮宇観光バスで移動した。

到着後、4泊定泊のニューワールド・ホテルにチェックインした後、直ちに永東高校体育館に向った。

3時から栄東高校と30分ハーフの試合を行った。この遠征目的は、ディフェンス力と足を使った攻撃（速攻）力強化、私生活面での責任ある行動、の三点を目標に掲げたのだが、残念なことに初戦を見た限り、意志伝達がなされていないように感じた。

初戦の緊張と韓国ハンドボールに対する無知さと、選手起用のまずさで、これからの課題点をすべてさらけ出したような、まずい試合だった。

試合後、4日間を通じて、権純昌氏に基本技術指導をお願いし、1時間30分程トレーニングを行った。

また、奥田コーチから適切なアドバイスと足さばき等を、手取り、足取り、叱咤激励されながら直接個人指導。

その結果、試合を消化するにつれ、技術面での二点目標が実際に理解出来、身体で反応を示せるまでになってきた。

21日、光明体育館で、午前中は泳薫高校、午後は大川高校と試合を行った。

2泊した影響で、ホテルから体育館までの道中も話し声が多く、その内容もハンドボールの作戦的なものが主となり、チーム間のまとまりも生れつつあり、スタッフとして安心出来るような状態になってきた。

試合結果は、日本23－20泳薫高校、日本20－20大川高校と、1勝1分で終ったが、2試合とも内容的には納得のいく試合であった。

しかし、残念なことに、控え選手の準備が遅く、十分に力を発揮できず、コーチから叱られる場面が度々あった。

22日、同会場で大川高校で最終戦を行った。精神面と技術面とが一つになり、日本25－15大川高校、と示すように、気迫のこもったすばらしい試合内容で締め括ることができた。

総合して、今回体験したことを糧にし、このジュニアメンバーの中から、将来、全日本チームの一員として、一人でも多く活躍してくれることを期待する。そして、全日本チームが世界に通用し、アジアの雄に返り咲くことを願い、一環教育の第一ステップとしてジュニアチームを育てていくつもりです。

また、この遠征は、ジュニアにとっては最高のイベントだと確信しており、今後も継続させていただく予定にしておりますので宜しくご協力お願い致します。

なお、9ブロック発掘委員の諸先生方、ご協力ありがとうございました。この書面をもって御礼にかえさせて頂きます。

賛助会員のご紹介

いつも当協会の事業に格別のご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

(財)日本ハンドボール協会は賛助会制度を設け、会員の方に情報の提供、日本協会主催の大会の無料観戦等の特典を用意してハンドボールを楽しんでいただいておりますが、平成6年3月31日現在の賛助会会員は下記の方が登録されております。この賛助会にはいつでも入会出来ますので、まだご入会されていない方は、日本協会（担当・本多）までお問い合わせ下さい。

■個人賛助会会員（敬称略）

▼北海道　中村崇／松本博
▼岩　手　箱崎敬吉／渡辺和佳
▼宮　城　森恭一
▼秋　田　中山浩／松田光雄
▼山　形　奥山重雄
▼福　島　加藤岳郎／根本真／宗形守敏
▼茨　城　大西武三／小川秀樹／田中勲／鈴木均／住尾勉
▼栃　木　加藤圭子／関口雄康／高橋隆夫
▼群　馬　高橋潔
▼埼　玉　上原悟／遠藤健次／柿崎真吾／木野実／島田弘毅／島田育子／高田誠／竹野奉昭
▼千　葉　浮谷貞雄／木内兵太郎／木内久美子／津川昭
▼東　京　安藤純光／市原則之／鵜沢潔／大塚文雄／大野金一／加藤正喜／川上整司／蒲生功／斎藤英四郎／佐藤和孝／佐野和夫／塩川安賢／島林護／杉山茂／高橋健夫／高橋英次／滝口三郎／殿水幸雄／中澤重夫／西岡雅樹／福地賢介／不破亨／村野嘉孝／米倉功／渡邊佳英
▼神奈川　植村繁／臼井鉄久／北川勇喜／河野卓也／佐分正典／真田元／村松誠
▼山　梨　斎藤実／清水正
▼新　潟　大矢三郎
▼長　野　青木崇
▼富　山　片岡恵／金原至／嶋田新太郎／中山重一／山口吉弘
▼石　川　若山博
▼福　井　谷口孝治／塚崎則男
▼静　岡　秋山光男／生子勝久／松下順／吉田定静
▼愛　知　浅野克彦／伊藤和男／宇津野年一／梅村忠雄／近藤久弥／竹内琴美／田中基明／溝口博一／横地宇吉
▼三　重　田村金子／栗本士郎／鈴木義男／鷲見應治／鷲見栄利子
▼岐　阜　久保義雄／杉森弘幸／豊島康彰／吉田元
▼滋　賀　尾本和男
▼京　都　吉田博二／家村博史／北和人／岸本光夫／北川武彦／垣内洋介／木下右門／小西博喜／立石孝雄／林佳弘／横山由子／山口栄一
▼大　阪　神田清／西村亮治／花畑平男／花畑テル／山中善之祐／望月伸三郎／渡辺巌
▼兵　庫　大原康昇
▼奈　良　佐々木英明／森田正英
▼和歌山　田中秀和
▼鳥　取　松原紀機
▼島　根　船江明光
▼岡　山　小嵐昭子／楠戸榛也／田浦博
▼広　島　安達正俊／荒谷拓三／伊藤剛／伊藤七久／池野友規／一ノ瀬明／井原勝則／今田薫／今村和紀／上野和生／内沖千保子／上垣内祐輔／大久保智子／岡田寿人／沖良一／尾上国信／小野勝弘／加藤徹／河本千寿子／菊岡正敏／木村治／木村邦子／黒川正明／柏原信行／河野洋右／河野宣子／琴谷紀子／佐々木和登／日浦敏和／塩見博／末田清則／孫燕／高杉国男／高橋寿美雄／隆杉端／高間隆次／立花ひろし／田中春美／田中美代子／田中秀利／多賀一範／谷本吉香／玉崎政光／垰野光伸／中田和夫／永井初男／鳴輪静香／中本昌幸／南條健治／西元義昭／西田裕子／濱脇純一／林周一郎／林明美／東昌弘／久村英雄／藤岡芳郎／藤本康生／堀守隆／槙岡達真／槙岡辰男／槙岡栄／槙場英昭／松本隆允／真志田和彦／楢原隆雄／三上博士／道原徹／三原哲／水野仁／水下泰充／村上誠治／向下武雄／八木洋／山下泉／山下知美／山本一／山本泰弘／山本京子／山本政生／山根誠一／向井良文／湯蓋郁江／両徳良樹
▼山　口　飯田弘昌／岡邦敏／川井進一／原田和敬／林哲人／広政清純／古富博／藤尾洋
▼香　川　越智武／楠原敏明／平木一令／槙井俊明／松原忠
▼徳　島　半田忠史
▼愛　媛　高橋満年
▼高　知　酒井満
▼福　岡　中西敬一
▼佐　賀　甲斐忠義／中園嘉彦
▼長　崎　原田国男
▼熊　本　井薫／與縄義昭／森豊夫
▼大　分　福田稔／松井光
▼鹿児島　永吉浩幸／堀之口貞夫

オリンピックソリダリティ開催要項

オリンピックソリダリティは、国際オリンピック委員会（IOC）がスポーツ振興のためコーチ派遣などに対し、財政援助を行うもので、IOCの専門委員会の一つであるソリダリティ委員会のもとに国際競技連盟(IF)、各国オリンピック委員会（NOC)、各国競技連盟(NF)が連携して開催される事業である。ソリダリティには3つのタイプがあり、今回開催されるのはナショナル（国内）コースである。日本ハンドボール協会では、1898年にチェコのムラッツ氏を迎えて開催されており、今回2度目の開催である。

目的　IHFより講師を招き、実技指導・理論の講習を行うことによって、ナショナルチーム選手及び指導者のレベルアップを図ることを目的とする。

主催　JOC、(財)日本ハンドボール協会、関東ハンドボール協会、東海ハンドボール協会

主管　栃木県ハンドボール協会、愛知県ハンドボール協会

講師　Allan Lund（デンマーク）　IHF／CCM menber

対象　選　手　男女ナショナルチーム
　　　指導者　ナショナルスタッフ、日本リーグコーチングスタッフ、公認コーチ、都道府県代表の指導者、推薦の指導者（日本協会、都道府県）

方法　男女ナショナルチームの合宿を利用し、会場、会期を二つに分け行う。

受講料　3000円

第1講習会　期日　6月25日(土)～27日(月)
　　場所　日立栃木体育館（栃木県）
　　デモンストレーター　女子ナショナルチーム

第2講習会　期日　6月30日(木)～7月2日(土)
　　場所　大同特殊鋼体育館（愛知県）
　　デモンストレーター　男子ナショナルチーム

申込方法　受講申込書に必要事項を記入の上、下記宛、5月27日(金)までに申し込んで下さい。

第1講習会　〒329-02　栃木県小山市間々田23-1　県立小山南高校
　　河先　修　☎0285-45-2424

第2講習会　〒486　春日井市如意中町3-5-1　春日井南高校
　　伊藤　諭志　☎0568-32-7688

連載6

ハンドボールの指導法

指導委員会委員長　大西　武三

人材の確保

「人を見つけて」「育てる」は指導の原点であるが、とりわけ人を見つけてハンドボールをさせることは、指導者として先ず最初に直面する大切で骨の折れる仕事である。

ハンドボールを始めた動機を以前に調査したことがあるが、その動機で最も多いのが人から勧められてというものであった。その人とは先生であり、友人であった。それに対して当時人気スポーツであった野球やバレーは、「そのスポーツが好きだから」や「テレビを見て」であり、動機が直接そのスポーツと結びついていた。爆発的に普及するためには、人を間にはさんだ間接的なものより直接的なものでないと駄目だと当時感じていたが、その感は未だに脱皮できずにいる。現状はやはり先生や部員が人集めに頑張らなければならない。

チームの強さ弱さに関係なく、どんな指導者でもこの人集めには苦しんでいるものである。

昔話で恐縮ですが、私も高校では全国の強豪の一つに数えられるチームにいたが、強ければ強いでまた人材も集まりにくいものである。新学期にはよく勧誘した覚えがあり、こんな事もあった。

私「ハンドボール部に入らないか」

生徒「ハンドボール部だけには入るなと言われている」

私「そんな事言うのは誰だ?」

生徒「はい、父でこの学校の校長です」

と言うような笑い話もある。かと思えば、中学校の先輩にうどん一杯奢られてサッカーに入るはずがハンドボール部に入りナショナルチームまで行った者もいる。今の時代、「うどん」に変わるものは何であろう。

ある強豪チームの中学校の先生は小学校を回って、個性のある生徒を集めるという。成績のよい子、運動能力の高い子、運動の好きな子、性格のよい子等。部は均一の人間の集まりではうまく行かず、また個性のある子がいれば自然に人も集まって来るものである。

問題なのはハンドボールの環境に恵まれないクラブの人材の確保である。顧問はいても生徒たちが主体となっているようなクラブでは、時としてその存在が危ぶまれることもあるだろう。ハンドボールは、指導者がいなくなると部がつぶれるとよく言われるし、また実際に目にしてきた。

今のサッカーのようにメディアが応援でもしてくれれば何とかなるだろうが、そんなこと今すぐにハンドボールで出来そうにない。2000年を目指して、熊本の世界選手権を契機としてそのような状況を生みだす努力はハンドボール関係者が挙ってやらなくてはならないことであるが。

一方、地道な方法として、ハンドボールに今一歩入り切れない多くの指導者にハンドボールの面白さを知ってもらい、単なる顧問から情熱的なハンドボール指導者へと導いて行く事がある。

そのためには、私的な交流はもちろん、公的な指導者の研修会を積極的に開催して、ハンドボールに対する理解を深めて頂くような施策を図っていくことが大事である。市、県、日本協会、連盟レベルでやって行かなくてはならない。また、公認指導者の巡回指導など積極的な活用も考えられる。

このような努力によって一人でも多くの指導者にハンドボールの面白さをわかってもらえれば、人集めもやるだろうし、生徒もハンドボールの面白さを伝えてくれるにちがいない。「好きこそ物の上手なれ」の諺のごとく、好きになってくれさえすれば後は生徒も指導者も進んで活動に取り組むだろう。そして単なる「好き」が「熱中すべきもの」「生きがい」あるいは「自己実現」と言うような高いレベルの欲求へと進んでくれれば言うことはない。

ハンドボールが好きで熱心な指導者が沢山おられる。自分のチームの育成はもちろん、ハンドボールの世界を大きくする施策にも力を貸して頂きたいと思う次第である。

日々の練習

前回に引き継いで、日々の基本的な練習について書きます。「ハンドボール指導法教本」を参考にして、ご一読下さい。

●ウォーミングアップ

▼ボールを使用してのアップ

ウォーミングアップはボールを使用しないで行うのが一般的であるが、ドリブルやパス、あるいはボールの扱いを入れながら行うのも一つの方法である。ウォーミングアップを短時間で切り上げなければならないとき、技術練習を兼ねながら行いたいときには有効である。いろんなフットワークを行う中でボールハンドリング、パス、ドリブル等を行う。徐々にスピードを上げると共に体操を入れながら行う。

▽例えば

ボールを転がしながら走る

ドリブルしながらフットワーク

ダッシュ、ストップ、回転
ボールハンドリング
空中に挙げてノーバンでキャッチ、空中に挙げて一回転してキャッチなど
三角パス、チェンジパスなど

●対人パスキャッチ

省略

●ポジションパス

対人パスはゲームでの位置関係を意識しないでパス動作やキャッチ動作に焦点を当てて行う練習であるが、このポジションパスはゲームの位置関係を意識して行うパス練習である。またパスした後の位置取りも同時に習得する。チーム戦術に合う形で練習するのが最も効果的である。

図1は、パラレルパス攻撃戦術を想定してのポジションパス練習である。4～5人がポジションにつきカットインしながらラテラスパスを行う。パスした後、ステップパスしてすぐにポジションに戻る。

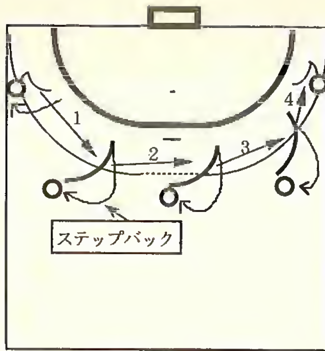


図1

●指示フットワーク

図2のように横一線となり、前にいるリーダーの手による方に指示に従ってフットワークを踏む。リーダーの指示にいかに素早く反応するかがカギである。

時間は10秒から20秒位まで。約5～10回行う。

サイドステップターン
クロスステップターン
詰めとバックステップ

フットワークの技術と共に脚力の強化のために行うので、出来るだけ全力で行う。

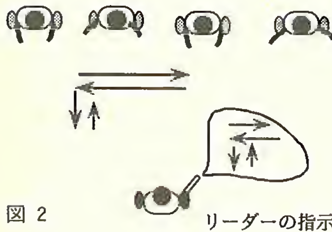


図2

●1対1の基本練習

数人が組になって1対1に必要なフェイントや防御のステップを約束的に練習する。

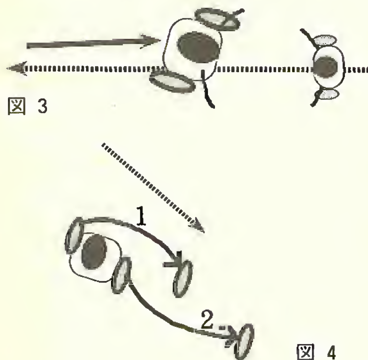
▼フェイント

1対1の突破動作をフェイントというが次の3つのタイプがある。

①フットワークによるもの
②シュートフェイント
③パスフェイント
指導法教本参照の事

▼ディフェンスの足運びの練習

①ゴールエリアラインに立ち構える
②前に詰めて構える
足を前後にして構える。図3のように中心線より抜かれたくない方向へ幾分ずれてシフトする。


図3

③詰めた後のフットワーク
抜く方向を見て付いて行く。図で右方向へ付くときは左足から大きくクロスステップして付いていく（図4）。逆の場合は左足を大きくひいてからクロスステップで付いていく（図5）。

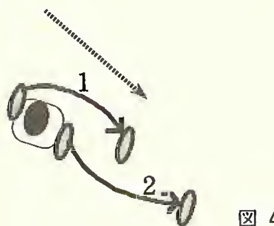


図4

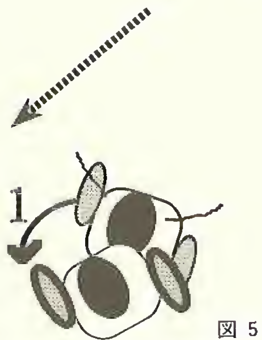


図5

◎練習の要点

抜く側も抜かれる側もその動作に気をつけて行う。攻防戦ではなく動作の練習なのでオフェンス側は抜く方向を決めて動作し、それに対してディフェンスが正しい動作で付いていくようにステップを踏む。

●ゴールキーパーの基礎練習

①動作範囲の拡大
図のような隊形からシューターはシュートする。ゴールキーパーは、一方のゴールを掴み、シュートに備える。投げられたシュートに対して上あるいは下への大きい動作でキーピングを行う（図6）。

②ブラインドシュートに対する反応動作
図のように二人が立つ。その陰からシューターは動作を隠してシュートする。ゴールキーパーはブラインドシュートに反応してキーピングをする（図7）。

●ポジションシュート

自分のポジションからシュート練習を行う。その際、ディフェンスの隊形をつける。

は一線・1・2・3、1・5など。試合で使う1対1のステップを使ってシュートする。ディフェンスは試合の状況を考えて少しプレッシャーを加えてやる。あるいはシュートブロックをする。

●ポジションでのコンビシュート

2人、あるいは3人のコンビを使ってシュートする。

●速攻・セット攻防

省略

●6対6の攻防

6対6の攻防練習をする際には、チームの戦術とそれに基づく個人の役割が必要である。チームの戦術は、チームのプレイヤーの個性をみて考えなれければならない。

攻防の戦術は一つか二つ、あるいはそれ以上持つことがあるが、それはそのゲームのゲーム構想による。ゲーム構想については先月号でその考え方について述べた。

今回は攻撃戦術にどのようなタイプがあるかを述べますので参考にして下さい。

◎攻撃戦術の例

①ローリング法

プレイヤーがローリングしながら攻撃する。攻撃位置がローリングすることによって変わる。プレイヤーにオールラウンド的な能力が要求される。身長が低いチームによく採用される。

②フォーメーション法

2、3のフォーメーションを武器にして攻める。相手の状況によってフォーメーションに変化させ対応する。初心者の攻撃戦術の導入にはよい。フォーメーションの例は指導法教本チーム攻撃戦術と攻撃例参照のこと。

③ポジションプレイ法

ダブルポスト戦術に代表されるように二人のポストプレイヤーを置き、フローターのパスとフェイントによってディフェンスを揺さぶり、チャンスを作って行く。各ポジションのプレイヤーは攻めても基の位置（ホームポジション）に戻って来る。フローターにロングシュート力、フェイント力、パスアシスト力が要求される。個人の攻撃の持ち場が決まっているので、初歩的な段階では導入しやすい。

④カットインオフェンスク法

以前の韓国が得意としていた戦術。ヨーロッパでも攻撃戦術の基本的な方法として導入しているもの。ポスト以外の5人がシュートを狙ったカットインを行う。パスは素早いラテラルパスを使用し、その合わせはパラレル（並行）で連続させる。素早いパスワークと動きの中でディフェンスを揺さぶる。その状況からロングとカットイン、ポストプレイなどのコンビによる突破のチャンスを伺う。一線防御に対する攻撃法として理解しやすくバリエーションも作りやすい。ただフットワーク力とパスワーク力が必要。

⑤センタースリーからダブルポスト移行法

センタースリーの攻撃からダブルポストに入り、ディフェンスのマークミスを誘うことによってチャンスを作る。1・5や1・2・3ディフェンスに有効な攻撃法として現在多く用いられている。

以上は現在ハンドボールの現場でよく見られる戦術の一部である。その他の戦術も指導法教本に書かれているので参照して下さい。6対6はチーム戦術を身につける練習であるので、チームのプレイヤーが目指す具体的イメージを共通理解としてもってやらなければまとまりのある戦術を身につけることが出来ない。

●セットから速攻・ゲーム

省略

●体力トレーニング

指導法教本のトレーニングの項参照

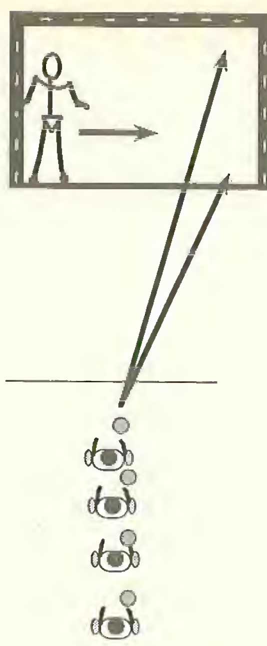


図 6

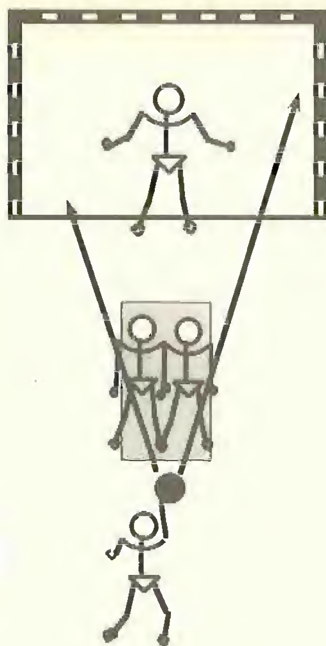


図 7

ペナルティースローに対するゴールキーパーの注視と視線に関する基礎的研究

日本ハンドボール協会スポーツ医科学研究委員（スポーツドクター）
阿部徳之助（自治医科大学）

スポーツ・ビジョンに関する研究は、アメリカでは1941年ごろからはじめられている。それによると、スポーツ選手は非スポーツ選手より優れた目をもっており、周辺視で動く物を知覚する範囲も広く、眼球運動や周辺視力、さらに瞬間視力などがよいという。日本でこれに関する研究は、1986年ごろから系統的に行われているが、これに関する研究はあまり進んでいないのが現状である。

競技力の向上の主な要素に、体力や精神力などがある。視機能も重要な要素の一つとして上げることが出来る。

運動選手の「目の良し悪し」は、競技能力と深い関係にあることは言うまでもない。「選手が目がいい」ということは、試合中の状況判断もよく、状況に応じて的確にプレーが出来る。スポーツでは、外界から大脳への情報は、80～90％は目から入ると言われ、ハンドボール競技でも、他の選手やボールなどを視野に入れ、聴覚や視覚等からの情報を得て、瞬時に判断し迅速にプレーしている。

筆者は、高校生の時ハンドボールの指導で、目の置くポイントを監督から指示されたことを思い出す。「ボールをよく見るんだ」、「同時に周りをよく見るんだ」などと指摘された。このことは、相手や味方の位置、行動周辺（周辺知覚）を見ながら情報を得させる指導であったのであろう。

また、パスの上手な選手は、目線と反対方向に素早いパスや、後ろに眼がついていると思わせる選手もいた。このような選手は、他の選手に比較して視野が広いものと思われる。このような超一流の選手は、どの部位を見てプレーをしているか、現在はアイカメラで目の視線（眼球運動）を分析することによって知ることが出来る。

そこで筆者たちは、視線と注視の基礎的な研究として、ペナルティースロー（以下PTとする）次のゴールキーパー（以下GKとする）について調べた。このPTは制限時間内に誰からも妨害を受けることなく「スロー」が出来ることから、日本リーグではPTの成功率が75％という高い得点率を示している。

日本や世界のトッププレイヤーのボールスピード（100～120㎞／h）から見て、ボールがシューターの手から離れるのを見てから、シュートコースを予測したのでは、ボールスピードが優るので阻止は不可能となる。そこでGKは、シューターの手からボールが離れるまでの短時間に多くの情報を瞬時に集め、その情報をもとにシュートコースを予測し、ボールに反応していると思われる。

本実験は、PT時はGKがシューターの身体のどの部位から情報を得てボールに反応しようとしているかを、注視点や視線の移動などから分析し、GK指導の基礎資料にするため実施した。対象者はGK男子6名（全日本2名、大学生2名、高校生、中学生各1名）で、競技歴9年以上を熟練者とし、3年以下を初心者とした。アイカメラは、竹井工業製を使用した。この機器は小型で無線の送信が出来、動作はほとんど制限されることはないという特性を持っている。

実験としてのPTのシュートの条件を統一するため、PTのビデオ映像を用いた。PTは、いろいろ種々な条件で情報を得るため、クイックシュートやフェイントの回数を多くしたものなどを含め5種類とした。写真には実験風景を示した。シュートコースを出来るだけ早く、正確に判断するよう指示した。データ処理は、解析プログラムを用いて、経過時間（msec）、視線の軌跡と移動速度（deg／sec）を分析した。

その結果：(1)スロー開始から終了までの注視の頻度を示した（図２）。GKがどの部位に注視したかを見ると、熟練者と初心





図2 スロー開始から終了までの時間と注視の頻度

者の注視の部位は、①ボールを見る、②顔部を見る、③胸部から顔へ、④そしてボール、次々に注視点が移動し、視線の部位に個人には違いがあることが明らかになった。
　この5種類のシュートで、一番最初に見た部位は、図3に見られるように、熟練者は「ボール」の60%が最も多く、次に「顔」27%、「胸部」13%である。これに対して初心者は「顔」が74%、「ボール」が26%である。

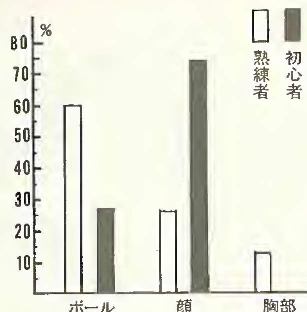


図3 熟練者と初心者が最初に注視した部位



図4 各種シュートの視線の軌跡

(2)図4に各種シュートの視線の軌跡を示した。この視線の軌跡はスロー開始からスローの終了までのシューターが身体を使ったフェイントやボールフェイントなどからの情報が視線として記録されたものである。
　「クイックシュート」を見ると、日本のトッププレイヤー（GK）である橋本選手（全日本選手）は、他のGKと比して視線の軌跡が大きく、これに対して他の選手の視線は短い。この記録から見ると、橋本選手は短い時間内に多くの情報を得ているものと推察出来る。
　次に「フェイントを用いたシュート」を見ると、熟練者は横の視線を示しているのに対して、初心者は縦方向の視線を示し、両者に異なった視線が見られる。
　この異なった視線は、初心者では、ボールを前に突き出すフェイントをシュートと誤って判断したものと考えられる。
　全体的に見て、熟練者と初心者の両者は、ほぼ類似の軌跡を示しているが、この視線の軌跡を比較して見ると、シューターの身体の上肢、下肢の動き、ボールフェイントの速さなどが、PTの成功率に影響を与えていることが明らかになった。

参考文献

1）阿部徳之助他：アイカメラを用いたハンドボールのゴールキーパーの注視点に関する研究、日本体育学会第43回号、P757、1992
2）石垣尚男：スポーツと眼、大修館書店
3）スポーツビジョン研究会：スポーツ・ビジョン、BOOK HOUSE HD

（監修・スポーツ医科学委員長　西山逸成）

東京運動記者クラブ表彰

日新製鋼・堀田幸夫選手が初受賞

西山清監督兼プレイヤーが特別賞を受賞



写真右は堀田幸夫選手。左は西山清選手

東京運動記者クラブ・ハンドボール分科会は、平成5年度の表彰を日新製鋼・堀田幸夫選手に決定した。また特別賞には監督兼プレイヤーの西山清選手をそれぞれ選んだ。しかしながら女子の部門については該当者なしということになった。

堀田選手は25才。日新製鋼の中でいぶし銀的な存在でゲームの流れを読み、相手にとってはうるさいプレイヤーである。平成5年度は日本リーグの優勝に貢献すると同時に、プレーの面白さを存分に発揮した。

西山選手兼監督は日本リーグ新記録の得点が評価されての受賞となった。

フリースロー

企画広報委員　早川　文司

昨年、日本列島はサッカーのJリーグブームが大噴火。プラチナペーパーとまで呼ばれた入場券は、偽チケットお目見えというおまけ付きだった。他の競技団体は、指をしゃぶりながら歯ぎしりしきりだったことだろう。

ところが、プレイヤーのマナーはというと、決してほめられたものではなかった。背後からのハードタックルなど選手生命を奪いかねない卑屈なプレーが見受けられた。反則のバーゲンセールは、せっかく設けられたフェアプレー賞該当チームなしの情けなさ。その代表格が、ペレと並ぶブラジルサッカー史上最高のスーパースター、鹿島アントラーズの「ジーコつば吐き事件」である。イエローカードはありがたくない流行語として列島を駆け巡った。

もう一つ、選手・球団サイドから再三指摘されたのが、審判批判だった。技術の未熟さと、特定チームへの〝ひいきの笛〟というもの。そこには信頼関係はまるでプッツンだ。

審判だって人の子。試合で一つや二つのミスはある。でも、先のバスケット日本リーグ男子決勝リーグ最終戦で、笛一つで流れがガラリと変わり、熊谷組がラストゲームを飾れなかったような〝笛〟は追放したいものだ。

審判は中立、公平が原則だが、それをこなす十分な技術、体力は、それぞれがしっかりトレーニングすることが義務であり責任だ。かつてプロ野球の二出川審判が「オレがルールブックだ」と名セリフを吐いたが、こんなカッコイイ言葉は、よほど自信がなくては言えまい。ハンドボールの審判も「判定は絶対だ」と胸を張れるように技術の向上を忘れず断固たる態度を示してもらいたい。

その結果、選手の信頼が増し、ファンの感動を呼び、ひいてはハンドボール界の発展へとつながる。互いに技をみがき、信頼しあってこそ、真のスポーツマンといえるし、ファンに対する最大のビューティフル・プレゼントと思うのだが…。

各地の大会結果

東北

第1回東日本小学生大会

（2月12、13日／山形県東根市・尾花沢市）

◎男子

▼予選リーグ順位

A ①東根ハンド（山形県）②塩山ハンドスポ少（山梨県）③荻袋小（山形県）

B ①石川クラブ（福島県）②スポ少守谷クラブ（茨城県）③尾花沢スポ少（山形県）

C ①窪スポ少ハンド（富山県）②本宮ハンドスポ少（福島県）③若木ハンド（山形県）

D ①石川スポ少（福島県）②神町ハンド（山形県）③リトル・ハンド（岩手県）

▼準決勝

窪スポ少 12－10 石川スポ少

石川クラブ 15－11 東根ハンド

▼3位決定戦

東根ハンド 13－7 石川スポ少

▼決勝

石川クラブ 20－17 東根ハンド

◎女子

▼予選リーグ順位

A ①仏生寺スポ少（富山県）②リトル・ハンド（岩手県）③神町ハンド（山形県）④尾花沢スポ少（山形県）

B ①塩山ハンドスポ少（山梨県）②東根ハンド（山形県）③荻袋小（山形県）④本宮ハンドスポ少（福島県）

▼準決勝

仏生寺 13－3 東根ハンド

塩山ハンド 5－4 リトルハンド

▼3位決定戦

東根ハンド 7－4 リトルハンド

▼決勝

仏生寺 15－7 塩山ハンド

北信越

JOCジュニア五輪北信越大会

（12月26、27日／福井市営体育館他）

◎男子

▼準決勝

石川選抜 21－15 長野選抜

富山選抜 23－16 福井選抜

▼決勝

富山選抜 18（10－9、8－7）16 石川選抜

◎女子

▼準決勝

福井選抜 18－8 長野選抜

富山選抜 21－10 石川選抜

▼決勝

富山選抜 14（5－5、9－6）11 福井選抜

東海

岐阜県高校選抜大会

（1月15、16日／岐阜県民体育館）

◎男子

▼1回戦

市岐阜商業 25－6 可児

岐阜東 24－12 大垣西

大垣工 31－22 高山工

県岐阜商業 29－11 中京商

▼準決勝

市岐阜商業 20－10 岐阜東

県岐阜商業 21－17 大垣工

▼決勝

市岐阜商業 16（6－10、8－4、1－1、1－0）15 県岐阜商業

◎女子

▼1回戦

養老女商業 32－0 中濃西

高山 22－10 瑞浪

富田女 25－11 海津

県岐阜商業 20－10 斐太

▼準決勝

養老女商業 24－9 高山

県岐阜商業 19－13 富田女

▼決勝

養老女商業 31（16－8、15－7）15 県岐阜商業

岐阜県選抜大会一般の部

（1月9、16日／三陽電気体育館他）

◎男子

▼1回戦

キャッチアップ 22－21 バウハウス

日本耐酸壜 32－12 岐阜教育大

大垣クラブ 21－13 岐阜クラブ

高山クラブ 20－13 三洋電気

岐阜南クラブ 23－19 伊吹クラブ

▼2回戦

市岐商クラブ 32－17 キャッチアップ

大垣クラブ 26－23 日本耐酸壜

岐阜西クラブ 26－19 高山クラブ

岐阜教員 24－18 岐阜南クラブ

▼準決勝

市岐商クラブ 22－13 大垣クラブ

岐阜教員 17－12 岐阜西クラブ

▼決勝

岐阜教員 17（7－9、10－6）15 市岐商クラブ

◎女子

▼1回戦

高山クラブ 15－1 羽島北OG

▼2回戦

こうよう会 22－20 高山クラブ

岐阜教員 22－13 三洋電気

▼決勝

岐阜教員 19（9－4、10－9）13 こうよう会

中国

広島県中学校新人大会

（2月11、19日／東広島市運動公園体育館）

◎男子

▼1回戦

修道 21－9 誠之

長浜 20－7 鳳

▼2回戦

修道 22－6 両城

昭和北 14－13 昭和

片山 19－7 松賀

長浜 27－13 二河

▼準決勝

修道 17－11 昭和北

片山 17－10 長浜

▼決勝

片山 17（8－8、9－7）15 修道

◎女子

▼1回戦

誠之 15－2 阿賀

松賀 棄権 亀山

▼準決勝

誠之 8－3 神辺東

松賀 14－5 甲田

▼決勝

松賀 15（6－4、9－2）6 誠之

四国

愛媛県高校新人大会

（11月20、23日／今治市）

◎男子

▼1回戦

松東 31－9 新東

▼2回戦
松南 18－12 新西
松工 27－20 新田
宇南 21－20 今東

▼2回戦
新工 32－9 松東
松南 18－12 城南
今西 22－14 松江
松北 30－13 宇南

▼準決勝
新工 23－9 松南
今西 16－15 松北

▼決勝
今西 18（7－9、11－8）17 新工

◎女子

▼1回戦
新商 12－9 小松
松商 14－10 伊予
今南 19－9 新東
松中 8－5 東温

▼2回戦
松北 11－7 新商
今東 22－7 松商
今南 12－5 松西
今北 29－1 松中

▼準決勝
松北 14－13 今東
今北 12－5 今南

▼決勝
今北 14（3－2、11－5）7 松北

愛媛県高校選抜二次予選

（12月25、26日／松山市総合コミュニティーセンター）

◎男子

▼1回戦
松北 20－16 松東
松工 15－12 松南

▼準決勝
松北 19－17 今西
新工 20－11 松工

▼決勝
松北 22（7－8、15－9）17 新工

◎女子

▼1回戦
今東 13－11 新商
今南 24－5 松西

▼準決勝
今東 19－9 松北
今北 14－10 今南

▼決勝
今東 13（7－6、6－6）12 今北

九州

福岡県高校新人大会

（11月21、23日／福岡大学他）

◎男子

▼1回戦
久工大付 21－4 香椎
若松 15－13 福岡工業
福岡 25－8 門司
九州産業 28－4 筑紫丘
小倉西 13－10 西南
泰星 20－13 玄洋
早良 23－7 明善
香住丘 31－7 日新館

▼2回戦
久工大付 27－8 若松
九州産業 20－11 福岡
泰星 16－13 小倉西
香住丘 15－12 早良

▼準決勝
久工大付 25－15 九州産業
香住丘 13－10 泰星

▼3位決定戦
九州産業 29－20 泰星

▼決勝
久工大付 19（13－5、6－6）11 香住丘

◎女子

▼1回戦
香椎 15－5 筑紫中央
春日 14－5 福岡南女
福岡女商 15－2 香住丘
福岡 12－5 浮羽

▼2回戦
筑紫女 21－4 香椎
春日 21－7 三井
福岡女商 24－7 小倉商業
九州女子 27－3 福岡

▼準決勝
筑紫女 23－7 春日
九州女子 22－7 福岡女商

▼3位決定戦
福岡女商 20－11 春日

▼決勝
筑紫女 21（10－10、11－7）17 九州女子

九州高校選抜大会

（2月4日～6日／熊本県立体育館）

◎男子

▼予選リーグA組
熊本商業高 19－11 都城工業高
熊本商業高 24－15 興南高
熊本商業高 17－17 長崎日大高
都城工業高 10－10 興南高
長崎日大高 17－15 都城工業高
長崎日大高 16－16 興南高

▼予選リーグB組
鹿児島工業 24－17 神崎農業高
久留米工大 20－18 鹿児島工業
大分電波高 17－15 鹿児島工業
久留米工大 37－4 神崎農業高
大分電波高 26－12 神崎農業高
久留米工大 12－12 大分電波高

▼2次リーグ
長崎日大高 16－16 興南高
大分電波高 18－10 長崎日大高
長崎日大高 16－14 鹿児島工業
大分電波高 24－21 興南高
興南高 16－9 鹿児島工業
大分電波高 17－15 鹿児島工業

▼決勝
久留米工大付属高 25（8－10、17－10）20 熊本市立商業高校

*この結果、全国高校選抜大会には久留米工大付属、熊本市立商業、大分電波が代表になった。

◎女子

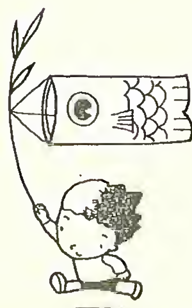
▼予選リーグA組
浦添高 16－16 熊本女子商
浦添高 33－8 神崎農業高
浦添高 31－13 宮崎第一高
熊本女子商 34－11 神崎農業高
熊本女子商 31－10 宮崎第一高
神崎農業高 17－14 宮崎第一高

▼予選リーグB組
大分東 27－8 国分中央高
国分中央高 15－13 聖和高
筑紫女学院 24－13 国分中央高
大分東 35－4 聖和高
大分東 22－19 筑紫女学院
筑紫女学院 21－4 聖和高

▼2次リーグ
熊本女子商 34－11 神崎農業高
熊本女子商 25－13 筑紫女学院
熊本女子商 34－6 国分中央高
筑紫女学院 27－23 神崎農業高
神崎農業高 22－13 国分中央高
筑紫女学院 24－13 国分中央高

▼決勝
大分東高 30（14－13、7－8、5－2、4－1）24 浦添高

*この結果、全国高校選抜大会には大分東、浦添、熊本女子商業が代表に決定。





「幸福」が増えますように。

豊かさがもたらすもの。それはなによりも、ひとりひとりの「幸福」であるべきでしょう。心の幸福感があって初めて、豊かさは意味を持つのです。物質的・量的な価値観から、精神的・質的な価値観へ。私たち伊藤忠は、「豊かさを担う責任」という企業理念のもとにチャレンジを続け、きっとみなさんに本当の豊かさをお届けします。

豊かさを担う責任。

ITOCHU

伊藤忠商事株式会社

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三四一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成六年四月二十六日 印刷 平成六年五月一日 発行
東京都渋谷区神南一-一-一
電話 代表 三四八一-二三六一
振替 東京 六-五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)